

上越教育大学

「上越市における学生生活アンケート」結果

(「大学生と地域の協力によるまちづくりに向けた調査研究報告書」別冊)

平成 17 年 3 月

上越市創造行政研究所

はじめに

本調査は、上越市における大学生の生活実態を調査し、今後の社会参画促進に向けた方策を探る参考とするために実施しました。具体的には「大学生と地域の協力によるまちづくりに向けた調査研究」の一部として実施したものであり、調査結果は、本調査研究における検討や施策提案において活用しています。

さて、平成 17 年 2 月に実施した本調査では、上越教育大学の学部生と院生を対象にアンケート用紙 450 部を配布したところ、202 名から貴重な回答を得ることができました。

調査の結果、上越教育大学における大学生の生活実態や上越市に対するイメージ、社会参画に対する考えなどが明らかとなり、これまで一般に把握されてこなかった大学生像の輪郭を把握することができました。大学生の生活実態をふまえ、社会参画の視点から大学生像を分析すれば、次のようなことが言えます。

生活実態：学部生と院生は関心事が若干異なるが、全体的に豊かな人間関係を大切にしたり、勉強のことや生活・お金のことを気にしたりする。このことから、良好な友人関係の構築と勉学の両立を図りながら、また部活動やサークル活動などに打ち込んだりと、全体的に忙しい学生生活を送っていることが推測される。

社会参画への関心：学部生の行動エリアは大学周辺の限られた範囲ではあるが、全体的に大きなイベントには参加しており、またボランティアや伝統行事・文化への関心は高い。過去にボランティア活動に参加した学生も多いが、入学後の現在はその割合が低下する。したがって、社会参画意識は高いものの、忙しい学生生活に加え、ボランティア活動の情報源が限られていたり、参加できる活動メニューが限られているなどの諸要因から、それが実現できずにいる状況がうかがえる。

社会参画のきっかけ：全体的に地域の情報やボランティア情報を入手する手段は口コミや大学事務局の掲示板が多く、また友人と誘い合って参加しやすい祭りやイベントなどに足を運ぶ学生が多い。これらを考え合わせると、学生の社会参画を促すにあたって、学生の行動エリアにおいて、情報を入手しやすい場所や方法で地域情報の伝達（PR）を行い、気軽に参加できるような工夫が求められる。

学生の社会参画に対する期待がある一方で、学生と地域との連携が進みにくかった背景には、上越市に暮らす大学生がどのような日常生活を営み、何に関心を抱いているのかが分からず、このため学生の参画を促すきっかけを作りにくかったことなどが要因として考えられます。つまり大学や大学生が、「近くて遠い存在」として認識されてきたということです。

しかし今回の調査から、社会参画に対する関心が高い反面、それが行動につながっていないというギャップがあることが分かりました。これを解消するためには、学生がスムーズに参画できるしくみを整えたり、学生の意識や行動スタイルなどを考慮した事業提案を行うことが重要となります。

もちろん、そのしくみや事業は学生のニーズのみに応じて提案されるものではなく、学生の実態に即したものでありながら、同時に地域の課題解決に結びつくような、学生と地域社会にとって相互にメリットのあるものでなくてはなりません。そうでない限り、具体的な歩みを進めることが困難となるからです。そこで報告書本編においては、この点に留意しながら「大学生と地域の協力」をテーマに調査研究を行い、実現性の高い事業提案となるよう検討を進めました。

なお、今回のアンケートは上越教育大学の学部生と院生を対象に実施したものであり、県立看護大学の大学生は対象に含まれません。両大学の学生が一体となって地域と協力したり、より多くの学生の社会参画を促したりするためには、県立看護大学生の実態を把握することも必要であり、今後の課題として残されています。

本調査は、上越教育大学の学長特別補佐である田中敏教授のご協力を得たことにより実現することができました。田中教授に深く感謝申し上げますとともに、本調査の結果が今回の事業提案のみならず、多様な場面で参考とされ、活用いただければ幸いです。

平成 17 年 3 月 上越市創造行政研究所

目 次

<p>はじめに</p> <hr/> <p>1 調査概要 1</p> <hr/> <p>(1) 調査要領</p> <p>(2) 調査結果の概要</p> <p>(3) 考察</p> <p>2 調査結果 13</p> <hr/> <p>(1) 回答者属性 16</p> <hr/> <p>1) 学籍・学年</p> <p>2) 専攻</p> <p>3) 部活・サークル</p> <p>4) 出身地</p> <p>5) まとめ</p> <p>(2) 1か月の生活費(収入と支出) 20</p> <hr/> <p>1) 1か月の収入</p> <p>2) 収入源</p> <p>3) 1か月の支出</p> <p>4) まとめ</p> <p>5) 考察</p> <p>(3) 行動実態 26</p> <hr/> <p>1) ショッピング</p> <p>2) よく行くところ</p> <p>3) 交通手段</p> <p>4) 交通手段と出身地の関連</p> <p>5) まとめ</p> <p>6) 考察</p> <p>(4) 住居 36</p> <hr/> <p>1) 住まいの形態</p> <p>2) 居住地</p> <p>3) まとめ</p> <p>4) 考察</p> <p>(5) 地域との関わり 38</p> <hr/>	<p>1) 参加したイベント</p> <p>2) イベント情報の入手手段</p> <p>3) 参加したイベントのまとめ</p> <p>4) 参加したいイベント</p> <p>5) まとめ</p> <p>6) 考察</p> <p>(6) ボランティア 48</p> <hr/> <p>1) 過去・現在のボランティア活動経験と今後の参加の希望</p> <p>2) 学部生と院生の比較</p> <p>3) 所属とボランティアの関連</p> <p>4) 現在と今後のボランティア参加への希望の変化</p> <p>5) ボランティア活動で重視すること</p> <p>6) ボランティア活動の情報源</p> <p>7) まとめ</p> <p>8) 考察</p> <p>(7) 気になること 60</p> <hr/> <p>1) 日常生活で気にかかっていること</p> <p>2) 学生生活で重点を置いていること</p> <p>3) まとめ</p> <p>4) 考察</p> <p>(8) 卒業後に対する意識 68</p> <hr/> <p>1) Uターン希望</p> <p>2) 出身地とUターン希望の関係</p> <p>3) まとめ</p> <p>4) 考察</p> <p>(9) 上越市に対する意識 70</p> <hr/> <p>1) 上越市の認知度(進学前)</p> <p>2) 上越市を知ったきっかけ</p> <p>3) 上越市で暮らしやすさを感じる</p> <p>4) まとめ</p> <p>5) 考察</p> <hr/> <p>参考 アンケート用紙</p> <hr/>
---	---

1 調查概要

1 調査概要

(1) 調査要領

1) 調査目的

本調査は、上越市における学生生活の実態を調査し、大学生と地域の協力によるまちづくりに関する施策提案（「大学生と地域の協力によるまちづくりに向けた調査研究」）に活用するために実施した。

2) 調査対象

上越教育大学の学部生と院生

（報告書本編において、大学生とは院生を含む。よってアンケートは、学部生と院生を対象に実施した。）

3) 調査方法

上越教育大学構内において配布し、構内に設置した回収箱を用いて回収した。

4) 調査経過

平成 17 年 2 月 4 日から 28 日にかけて、配布及び回収を行った。

5) 調査協力

調査票の設計、配布・回収、集計・分析作業においては、上越教育大学学長特別補佐である田中 敏教授の協力の下で実施した。

6) 回収状況

配布数	450 部
回収数	207 部
（有効回答数）	202 部（学部生 148 人、院生 54 人）
回収率	46%

（参考：上越教育大学学生数、単位：人）

	学校教育学部	大学院学校教育研究科	
		修士課程	博士課程
1 年	169	215	2
2 年	170	229	4
3 年	173	-	10
4 年	162	-	-
小計	674	444	16
合計	1134		

（注）学部生は 2 年次に 3 つの専修、7 コースに分かれる

（学校教育専修約 40 名、幼児教育専修約 10 名、教科・領域教育専修約 110 名）

7) 調査設計・分析における参考文献

- ・ 『上越教育大学概要 2004』
- ・ 『平成 17 年度上越教育大学大学案内』

- ・ 全国大学生生活協同組合連合会『第 39 回 学生の消費生活に関する実態調査 報告書 「Campus Life Data 2003-2004」』（2004 年 3 月）
- ・ 上越市『住民満足度調査報告書』（平成 14 年 5 月）
- ・ 田中 敏『実践心理データ解析 問題の発想・データ処理・論文の作成』、新曜社、1996 年 5 月
- ・ 田中 敏『クイック・データアナリシス』、新曜社、2004 年 10 月

(2)調査結果の概要

本アンケート調査により、次のような上教大生像が明らかとなった(表 1)。

1)回答者属性

学部生が約 7 割、院生が 3 割と学部生の割合が多い(実際の全学の割合は 6 対 4)。専攻は、教科教育系が約 4 割、学校教育系が約 4 割、幼児教育・障害児教育系が 1 割となっている。部活やサークルに所属しているものは学部生に多く、院生で所属している人は少ない。出身地は新潟県外が 7 割で、上越市出身者は 1 割にも満たない。

2)1 か月の生活費

学部生の約 8 割が 10 万円以下の収入で生活しているのに対し、院生の約 7 割が 10 万円以上の収入で生活している。院生には現職教員が多く、その収入源が給料によるものが多いことが違いとして影響している。

3)行動実態

学部生、院生ともに日用品以外のショッピングはジャスコやウイングマーケット周辺へ行くほか、帰省時に地元でまとめて行っている。学部生は、友人のところや本屋、コンビニなど暇なときに気軽に立ち寄ることができる場所や情報を得ることができる場所などを好み、普段は大学周辺を行動エリアとしている。

全体的に車所有者は多いものの、学部生には自転車で移動する人が半数いることから、行動範囲が必然的に狭いエリアに限られているということである。

4)住居

学部生、院生ともに大学から 1km 圏内の学生宿舎もしくはアパート・マンションに住んでいる人が大多数であり、生活の拠点が大学周辺となっている。

5)地域との関わり

学部生、院生ともに観桜会や上越祭り・花火大会など大規模なイベントへの参加が多く、それらのイベント情報は、口コミによって得る人がもっとも多い。

6)ボランティア活動

専攻の違いや、サークル・部活に所属しているか否かに関係なく、現在ボランティアに参

加している人は全体的に少ないが、今後は取組んでみたいという希望を持っている。学部生、院生ともにボランティア活動では、「誰のため・何のためになるのか」をもっとも重視し、次いで「日常的な行動範囲で行けるか」、「時間がかかるか、継続性が必要か」なども重視している。学部生、院生共にボランティアの情報源は、大学事務局の掲示板や口コミが多い。

7) 気になること

学部生は日常生活の中で「就職・進路のこと」、次いで「生活やお金のこと」と将来や現実の生活のことを気にしている。全国の学部生と比較すると上教大の学部生は、何かに関心を持ち何事にもまじめに取り組んでいる傾向がある。学生生活の重点も、全国に比べ上教大の学部生は「豊かな人間関係」を重視し、「何事もほどほどに」生活する人が多く、比較的のんびりとした傾向がある。

8) 卒業後に対する意識

学部生、院生ともに卒業後にUターンを希望する人が多い。県外出身者が多いことから、将来上越市に残る人は少ないと予想される。

9) 上越市に対する意識

学部生は、進学する前の上越市の認知度は低いものの、生活してみると、自然の豊かさや海や山の幸に恵まれ食が豊かであり、歴史や伝統があると感じている人が多い。

10) 「気になること」における上越教育大学の学部生と全国の学部生の意識の比較

日常生活で気にかかっていること (表2)

全国の学部生と比較して、上教大の学部生は次のようなことをより気にしている。

- | | |
|-------------------|---------------|
| ・ 就職や進路のこと | ・ アルバイトのこと |
| ・ 生活やお金のこと | ・ サークル・部活動のこと |
| ・ 授業やレポートなど、勉学のこと | ・ 心身の健康のこと |
| ・ 自分の生活や能力 | ・ 友人関係のこと |
| ・ 時間が足りないこと | ・ 住居や生活の雑事 |

学生生活の重点 (表3)

全国の学部生と比較して、上教大の学部生は学生生活の重点に関し次の違いが見られる。

- ・ 豊かな人間関係を重視する人が多い
- ・ 何事もほどほどに生活する人が多い
- ・ 勉強第一とする人が少ない
- ・ 重点は置かずなんとなく生活する人が多い
- ・ 趣味第一とする人が少ない
- ・ 資格取得第一とする人が少ない

表1 上越教育大学 「上越市における学生生活アンケート」結果概要

(単位：%)

		学部生	院生
(1) 回答者属性	学籍・学年 (1つ選択)	1年(16.3) 2年(41.8) 3年(13.3) 4年(4.1)	現任教員1年(16.3) 現任教員2年(0) 学部卒業1年(4.1) 学部卒業2年(3.1) 研究生・科目履修生他(1.0)
	専攻 (1つ選択)	1位 教科教育系(43.6) 2位 学校教育系(42.6) 3位 幼児教育・障害児教育系(13.4)	
	部活・サークル (複数選択)	所属している(91.9) 1位 体育系(58.8) 2位 文化芸術系(35.1) 3位 教育系(3.4)	所属していない(79.6) 1位 所属していない(79.6) 2位 体育系(11.1) 3位 文化芸術系(5.6)
	出身地 (1つ選択)	新潟県外出身者(74.7) 上越市出身者(3.4)	新潟県外出身者(72.2) 上越市出身者(1.9)
(2) 1か月の生活費(収入と支出)	1か月の収入 (1つ選択)	10万円以下(83.0)	10万円以上(66.7)
	収入源 (順位付け複数選択)	1位 仕送り(50.7) 2位 パイト(42.5) 3位 無し(80.8)	1位 給料(56.6) 2位 無し(83.0) 3位 無し(98.1)
	1か月の支出 (順位付け3つ選択)	1位 食費(66.7) 2位 交際費(27.1) 3位 衣服・美容(17.3)	1位 食費(57.7) 2位 学習・教養費(23.5) 3位 交通費(21.6)
(3) 行動実態	ショッピング (3つ選択)	1位 ジャスコ・ウイングマーケット周辺(81.1) 2位 帰省先(帰省途中)(59.5) 3位 新潟市(32.4)	1位 ジャスコ・ウイングマーケット周辺(85.2) 2位 帰省先(帰省途中)(48.1) 3位 上越大通りや山麓線など幹線道路沿いの店(44.4)
	よく行くところ (複数選択)	1位 友人のところ(49.3) 2位 本屋・コンビニ(46.6) 3位 ゲームセンター・パチンコ・カラオケ(33.1)	1位 本屋・コンビニ(57.4) 2位 ドライブ・温泉(35.2) 3位 スポーツ施設(20.4)
	交通手段 (2つ選択)	1位 自動車(57.4) 2位 自転車(46.6) 3位 徒歩(45.3)	1位 自動車(83.3) 2位 徒歩(46.3) 3位 自転車(13.0)
(4) 住居	住まいの形態 (1つ選択)	1位 学生宿舎(71.8) 2位 アパート・マンション(21.8) 3位 自宅(4.5)	
	居住地 (1つ選択)	1位 大学から1km圏内(89.4) 2位 高田・直江津の中心市街地以外の上越市内(6.6) 3位 高田・直江津の中心市街地(2.0)	
(5) 地域との関わり	参加したイベント (複数選択)	1位 観桜会(70.3) 2位 上越祭り・花火大会(33.1) 3位 高田・直江津の朝市(7.4)	1位 観桜会(59.3) 2位 上越祭り・花火大会(24.1) 3位 謙信公祭(13.0)
	参加したいイベント (複数選択)	1位 伝統行事(63.5) 2位 フリーマーケット(43.9) 3位 音楽イベント(35.8)	1位 伝統行事(55.6) 2位 教育・文化イベント(46.3) 3位 スポーツイベント(27.8)
	イベント情報の入手手段 (複数選択)	1位 口コミ(48.6) 2位 学内の掲示板(29.1) 3位 新聞・ラジオ・テレビ(20.3)	1位 口コミ(40.7) 2位 市の広報誌(38.9) 3位 タウン情報誌(33.3)
(6) ボランティア	入学前の過去の経験 (複数選択)	1位 幼児・児童支援(23.6) 2位 障害者支援(20.3) 3位 環境保護・リサイクル(18.9)	1位 障害者支援(25.9) 2位 災害復興支援(22.2) 3位 幼児・児童支援、町内会活動の支援(16.7)
	在学中の活動 (複数選択)	1位 幼児・児童支援(25.7) 2位 スポーツ指導(10.1) 3位 障害者支援(7.4)	1位 災害復興支援(7.4) 2位 町内会活動の支援(5.6) 幼児・児童支援、障害者支援(5.6)
	今後の希望 (複数選択)	1位 幼児・児童支援(66.9) 2位 災害復興支援(31.1) 3位 障害者支援(23.0)	1位 幼児・児童支援(38.9) 2位 災害復興支援(37.0) 3位 外国人支援(29.6)
	ボランティア活動で重視すること (3つ選択)	1位 誰のため・何のためになる活動か(73.8) 2位 日常的な行動範囲で行けるか(56.9) 3位 時間がかかるか、継続性が必要か(34.7)	
(7) 気になること	ボランティアの情報源 (複数選択)	1位 大学事務局の掲示(38.5) 2位 部活・サークルの掲示や口コミ(33.8) 3位 教員・ゼミなどの掲示や口コミ(18.2)	1位 教員・ゼミなどの掲示や口コミ(22.2) 2位 市の広報誌(18.5) 3位 大学事務局の掲示(14.8)
	日常生活で気にかかっていること (複数選択)	1位 就職・進路のこと(77.0) 2位 生活やお金のこと(64.9) 3位 授業やレポートなど勉学上のこと(62.8)	1位 授業やレポートなど勉学上のこと(74.1) 2位 生活やお金のこと(50.0) 3位 心身の健康のこと(40.7)
(8) 卒業後に対する意識	学生生活の重点 (1つ選択)	1位 豊かな人間関係(24.5) 2位 何事もほどほどに(23.1) 3位 勉強第一(17.0)	1位 勉強第一(48.1) 2位 豊かな人間関係(19.2) 3位 何事もほどほどに(11.5)
	Uターン希望 (1つ選択)	Uターンを希望(82.4)	Uターンを希望(62.2)
(9) 上越市に対する意識	入学前の上越市の認知度 (1つ選択)	1位 ぜんぜん知らなかった(40.1) 2位 名前だけは知っていた(23.8) 3位 名前も位置も知っていた(21.8)	1位 一定の情報を持っていた(35.2) 2位 名前も位置も知っていた(27.8) 3位 名前だけは知っていた(24.1)
	上越市で暮らしたやすさを感じる こと (複数選択)	1位 自然(緑)が豊かである(70.8) 2位 海や山の幸に恵まれ、食が豊かである(33.7) 3位 歴史や伝統がある(25.7)	

表2 「日常生活で気にかかっていること」における上教大学部生と全国の学部生の比較（複数選択）

（単位：人）

日常生活で気になっていること（複数回答）	上越教育大学（学部生）	全国（学部生）
就職・進路のこと	114	6,776
生活やお金のこと	96	7,942
授業やレポートなど勉学上のこと	93	7,740
自分の性格や能力のこと	72	5,207
時間が足りないこと	68	5,409
アルバイトのこと	63	3,620
サークル・部活動	63	2,627
心身の健康のこと	47	2,129
友人関係のこと	47	1,539
ガール（ボーイ）フレンドのこと	34	3,932
住居や生活の雑事	30	1,135
友人以外の対人関係のこと	27	NA
打ち込めることが見つからないこと	24	3,000
政治や社会の動き	11	1,228
特に無い	1	466
総人数	202	15,542

（注）：有意に多い（ $p<0.1$ ）（全国と比べ、上教大生のほうが日常生活で気にしている点）（12ページ参照）

NA: データ無し

（出所）全国：全国大学生生活協同組合連合会『Campus Life Data 2003-2004』

上越教育大学：上越市創造行政研究所調べ

表3 「学生生活の重点」における上教大の学部生と全国の学部生の比較（1つ選択）

（単位：人）

大学生生活での重点（1つ選択）	上越教育大学（学部生）	全国（学部生）
豊かな人間関係	36	2,953
何事もほどほどに	34	2,440
勉強第一	25	4,181
部活・クラブ第一	15	1,927
重点はおかずになんとなく生活	15	762
趣味第一	9	1,663
その他	8	218
資格取得第一	3	793
バイト・貯金	2	389
ボランティア	0	NA
総人数	147	15,542

（注）：有意に多い（ $p<0.1$ ）

（全国と比べ、上教大生のほうが大学生生活の重点と考えている点）（12ページ参照）

（出所）全国：全国大学生生活協同組合連合会『Campus Life Data 2003-2004』

上越教育大学：上越市創造行政研究所調べ

(3) 考察 「大学生と地域の協力によるまちづくり」に向けてー

1) 1 か月の生活費（収入と支出）

- ・ 院生は現職教員が多く、固定的な給与所得が得られるために比較的高額の収入があるものと推測される。学部生は、主に仕送りとバイトによる収入で生活していることが伺える。
- ・ 学生の支出は、食費が圧倒的に多い。次いで学部生は交際費、衣服・美容費、院生は学習教養費、交通費となっている。これらの食費以外の消費活動が上越市内で行われれば、地域経済に及ぼす影響は大きいものと思われる。

2) 行動実態

- ・ 学部生に帰省先でショッピングをする人が多いのは、そこが上越市の魅力を上回っていることや、日常生活の中でショッピングをするゆとりがないためなどの原因が推測される。
- ・ 学生全体で、日常よく行くところについて分析したところ、飲食店によく行く人は、そのお店が大学の近くではなくてもおいしいものがあれば行くことがわかった。このことから、関心を持つ対象やニーズを満たすものが地域内にあれば、多少大学から離れても学生が足を運ぶ可能性を持っていると言える。
- ・ 学部生は、暇なときに気軽に立ち寄れる場所や情報があるところに集まる傾向がある。こうした場所で上越市の情報発信を行う工夫をすると、効果的と考えられる。

3) 住居

- ・ アパート・マンションで生活している 2 割の学生に対し、交通事情や生活費の状況を考慮しながらより魅力的な住居を提供できれば、学外での居住の可能性が期待できる。

4) 地域との関わり

- ・ 参加したイベントと参加したいイベントでギャップがあったのは、フリーマーケットである。つまり、フリーマーケットのように学生が参加したいイベントを企画すれば参加者は必然的に増加する。例えば、上教大、看護大とも 10 月に開催している学園祭（学生が盛り上がるイベントの一つ）の前夜祭をまちのイベントと共に開催するなど、ジョイント方法を工夫すると参加者が増えると推測される。
- ・ 地域密着型のイベントについては、レルヒ祭や謙信公祭など歴史や文化のあるものについて一定の関心を持つ人が少なからずいることが分かった。このような人に対し、歴史・文化に関連するその他のイベントを紹介すると効果的と考えられる。
- ・ 市の広報誌はイベント参加につながるという結果から、有効な情報伝達手段の一つであると言える。市の広報誌は主に町内会を通じて配布しているが、希望に応じて配布もしている。地域との関わりやイベントへの参加を促進しようとするれば、町内会に属さない学生（単身用学生宿舎）などにも市からの情報がいきわたるよう改善する必要がある。

5) ボランティア

- ・ スポーツ指導や芸術・技術指導など、ある程度の知識や技術を必要とするボランティア経験が院生に多いことは、大学生活もしくは教員生活のなかで、それらの基礎となるボランティア体験を通じて学んできた結果であると推測される。
- ・ 日常の交通手段を徒歩と答えた人のほうがボランティアにおける知識・技術の必要性を重視するのは、徒歩であっても自分の知識・技術が求められていれば参加しようとする強い意思の表れと推測される。
- ・ 口コミには公的な情報源である大学掲示板と同じくらい効果があることが分かった。ボランティア活動への参加を促進しようとするとき、口コミは情報の伝達と勧誘の両面の効果をもつため、このネットワークを有効活用すると効果的である。

6) 気になること

- ・ 上教大生は、全国と比較して何かに関心を持ち、何事にもまじめに取り組んでいる。このため、関心を寄せるイベントや事業などに一度参加すれば、そこに継続して参加することも考えられる。

7) 卒業後に対する意識

- ・ Uターンを希望しない人やまだ決めていない人（約3割）に対して上越市の魅力をアピールすることで、卒業後も上越市に残ってもらうことが期待できる。

8) 上越市に対する意識

- ・ 学部生は、上越市を知るきっかけとして大学から得る情報が多いことがわかった。大学案内や入学説明会で上越市の魅力をより効果的にPRするなど、大学と連携した広報活動ができれば効果的と考えられる。
- ・ 上教大生が上越市で暮らしやすさを感じている項目の上位2つは、自然やそこからもたらされる食の豊かさなどである。これらは、日常生活の中で自然に受け取られている印象であるのに対し、福祉や教育などのように暮らしとサービスが直結しないと意識しにくいものも多い。よって、このようなこと以外で比較的印象が強かった「歴史や文化がある」点について、学生さらにアピールすると地域のイメージ向上や地域への愛着を喚起するにあたり効果的と考えられる。
- ・ 上教大生が感じる上越市のイメージは、上越教育大学所在地及びその周辺が生活の拠点になっていることを反映していると推測される。
- ・ 学部生と院生では、院生の方が買い物に便利であるため暮らしやすいと感じている。学部生と院生は利用する交通手段は違うものの、そもそも買物の便利さと利用する交通手段には関係がないことが分かっているので、そう感じられている理由は交通手段以外のことにあり得ると言える。例えば、魅力的な雰囲気が味わえるかどうか、欲しい商品が購入できるか

どうかなどの理由が考えられる。

- ・ 4年程度と比較的短い期間、限られたエリア、学生グループの中で過ごすことが多いことなどから、上越市に対するイメージは市民と比べて偏りがある。例えば、福祉医療の施設のサービスや老後の生活に関することなど若者が関係する機会が少ない分野については印象を判断することが困難なため、上越市民よりも評価が低いものと考えられる。

9) 総括

今回実施したアンケートにより、上越教育大学の学生の生活と学生像が明らかとなった。それらを踏まえ、特に社会参画の視点などから学生像を分析すると次のようなことが言える。

生活実態：学部生と院生は関心事が若干異なるが、全体的に豊かな人間関係を大切にしたり、勉強のことや生活・お金のことを気にしたりする。このことから、良好な友人関係の構築と勉学の両立を図りながら、また部活動やサークル活動などに打ち込んだりと、全体的に忙しい学生生活を送っていることが推測される。

社会参画への関心：学部生の行動エリアは大学周辺の限られた範囲ではあるが、全体的に大きなイベントには参加しており、またボランティアや伝統行事・文化への関心は高い。過去にボランティア活動に参加した学生も多いが、入学後の現在はその割合が低下する。したがって、社会参画意識は高いものの、忙しい学生生活に加え、ボランティア活動の情報源が限られていたり、参加できる活動メニューが限られているなどの諸要因から、それが実現できずにいる状況がうかがえる。

社会参画のきっかけ：全体的に地域の情報やボランティア情報を入手する手段は口コミや大学事務局の掲示板が多く、また友人と誘い合って参加しやすい祭りやイベントなどに足を運ぶ学生が多い。このことを考え合わせると、学生の社会参画を促すにあたって、学生の行動エリアにおいて、情報を入手しやすい場所や方法で地域情報の伝達（PR）を行い、気軽に参加できるような工夫が求められる。

学生の社会参画に関心が寄せられる一方で、学生と地域との連携が進みにくかった背景には、上越市に暮らす大学生がどのような日常生活を営み、何に関心を抱いているのかが分からず、このため学生の参画を促すきっかけを作りにくかったことなどが要因として考えられる。この点について、今回の調査で「学生は社会参画に対する関心が高い反面、それが行動につながっていないというギャップがある」ということが分かったことから、学生の社会参画を推進して

いくうえで重要となるポイントとして次のような点が指摘できる。

まず、ボランティア活動に対する意識や関心が高いもののそれが実現されていないことなどから、その阻害要因を探り、解消を図るなど、学生が地域で活動しやすいサポート体制を整えることが必要である。例えば、大学周辺地域を活動地域として選定したり、大きなイベント、学生が関心を持っているボランティアや伝統行事に学生の参画を促したりなど、学生が無理なく活動できることから始めることが大切である。

さらにそれらを促進するためには、大学生の行動スタイルを考慮し、頻繁に立ち寄る場所や活用している情報入手ルートに情報を流すなど、学生一人一人に確実に知らせることのできる情報伝達方法を使うことが重要である。また、口コミは情報媒体として抜群の効果を発揮しているということは、友人同士が誘い合って足を運ぶという勧誘の意味を持つと考えられることから、より多くの学生に地域情報が伝わるような工夫が求められよう。

以上のことから、学生の社会参画を促すためには、学生が無理なく日常的に活動できる地域や時間、学生の関心、情報提供の方法やタイミングなどを考慮するなど、学生がスムーズに参画できるしくみを整え、学生の意識や行動スタイルなどを考慮した事業提案を行うことが重要となる。

もちろん、そのしくみや事業は学生のニーズのみに応じて提案されるものではなく、学生の実態に即したものでありながら、同時に地域の課題解決に結びつくような、学生と地域社会にとって相互にメリットのあるものでなくてはならない。そうでない限り、具体的な歩みを進めることが困難となるからである。そこで報告書本編においては、この点に留意しながら「大学生と地域の協力」をテーマに調査研究を行い、実現性の高い事業提案となるよう試みた。

なお、今回のアンケートは上越教育大学の学部生と院生を対象に実施したものであり、看護大学生は対象に含まれない。両大学の学生が一体となって地域と協力したり、より多くの学生の社会参画を促したりするためには、県立看護大学の学生の実態を把握することも必要であり、今後の課題として残されている。

(参考) アンケート結果の検定方法

本アンケートでは、得られた結果について下記の検定方法によって検証し、統計学的に分析を行った。

質問：「イベント情報源としてタウン情報誌を読みますか」(表中の単位はすべて人数)

1. この質問から、次のようなアンケート結果が得られたとする

	ハイ	イイエ	総数
学部生	25	123	148
院 生	18	36	54

2. この結果から「学部生と院生の回答の差に違いが見られるか」について分析し、本文では次のように表記

(本文)「下表の結果から、イベント情報源としてタウン情報誌を読む人は、学部生と比べて院生に多い。」

	ハイ	イイエ	総数
学部生	25	123	148
院 生	18	36	54

(注) : 有意に多い($p < 0.05$)

3. この結果を解説すると、次のようになる

	ハイ	イイエ	総数
学部生	25 (31.504)	123 (116.495)	148
院 生	18 (11.495)	36 (42.504)	54

(注) : 有意に多い ($p = 0.011$ (片側確率))、上段：実測値、下段：期待値

「ハイ(タウン誌を読む)」と答えた人数だけをみれば、学部生の方が多。しかし、学部生と院生の総数の比が異なっているため、それだけでは学部生と院生の違いを結論付けることはできない。

そこでまず、実際の人数(実測値)と、母集団の比率に従った場合に出る人数、つまり期待される人数(期待値)の差に注目する。これが単に母集団の比率が違ふことにより出た結果であれば、実測値と期待値の差は小さくなる。しかし差が大きければ、何らかの傾向の表れと判断できる。

事例の場合、実測値(上段)と期待値(下段)を比較すると、「学部生でイイエと答えた人」と「院生でハイと答えた人」では、それぞれ期待値よりも実測値の方が多。つまり何らかの要因によって回答に傾向が表れ、人数が偏ったことを示しており、分析すべき結果であるということになる。

次に、この結果が偶然発生したものではなく、確かな結果であることを確認する。

具体的には、結果(人数の分布)が偶然表れる確率(偶然確率) p を算出して検定(片側検定)を行い、その判断基準を有意水準5% ($P = 0.05$ 以下であれば有意な結果であり、偶然の結果ではない)とした。

例題では、検定の結果、片側確率 $p = 0.011$ (0.05 以下)なので、「有意である(偶然の結果ではない)」となった。つまり、偶然にこのような結果が表れるのは1.1%という低い確率であることから、「イベント情報源としてタウン情報誌を読む人は、学部生よりも院生のほうが有意に多。これは偶然の結果とは考えられない。」($p < 0.05$, 片側確率)と判断される。

このように、学部生と院生の違いを比較するために、例題では以上の2段階の検定を行った。まずは「結果が意味のある傾向を示しているか」、さらに「結果が偶然でないかどうか」を確認したところ、両者をクリアしたデータに有意性が見出せた(偶然ではなく意味あるデータだった)ため、表中では「 : 有意に多」と示している。

2 調查結果

第2章では、第1章のアンケート結果についての詳細を報告する。

2 調査結果

(1)回答者属性

1)学籍・学年(図1)

[質問:あなたの学籍・学年は何ですか]

- ・ 学部生 75.5%、院生 23.5%と学部生が多い。
- ・ 院生の内訳は、現役教員が 69.4%を占めている (現役教員 16.3/院生全体 23.5×100)

2)専攻(図2)

[質問:あなたの専攻(希望する専攻)は何ですか]

- ・ 第1位は教科教育系(43.6%)、第2位は学校教育系(42.6%)、第3位は幼児教育・障害児教育系(13.4%)となっている。

3)部活・サークル

[質問:あなたが所属している部活やサークルは何ですか(複数選択)]

全体(図3)

- ・ 大学全体で見ると部活・サークルに所属していない人は 27.2%と少なく、半数近くの人が体育系の部活・サークルに所属している。

学部生(図4)

- ・ 学部生の 91.9%が部活やサークルに所属している。
- ・ 学部生が所属している部活・サークルの第1位は体育系(58.8%)、第2位は文化芸術系(35.1%)、第3位は教育系(3.4%)である。

院生(図5)

- ・ 院生の 79.6%が部活やサークルに所属していない。

4) 出身地

[質問: あなたの出身地はどこですか]

全体(図6)

- ・ 上越市出身者は、1割にも満たない(3.0%)
- ・ 全体の構成は、出身地1位中部(33.0%)、第2位上越市以外の新潟県内(23.0%)、第3位関東(15.5%)である。
- ・ 「上越教育大学概要2004」によると大学全体の構成は、出身地1位新潟県(31.8%)、第2位中部(30.2%)、第3位関東(18.2%)である。

学部生(図7)

- ・ 新潟県外の出身者が、74.7%を占めている。
- ・ 学部生の出身地は、第1位中部(36.3%)、第2位上越市以外の新潟県内(21.9%)、第3位東北(13.0%)である。
- ・ 「上越教育大学概要2004」によると学部生の出身地は、第1位中部(45.5%)、第2位新潟県(28.4%)、第3位関東(12.4%)であり、上越市出身者は2%である。

院生(図8)

- ・ 新潟県外の出身者が、72.2%を占めている。
- ・ 院生の出身地は、第1位上越市以外の新潟県内(25.9%)、第2位関東(24.1%)、第3位中部(24.1%)である。
- ・ 「上越教育大学概要2004」によると院生の出身地は、第1位新潟県(34.4%)、第2位関東(22.8%)、第3位中部(18.1%)であり、関東甲信越地方の出身者が75.3%を占める。

5) まとめ

- ・ 回答者は、学部生が多く学部生7割、院生3割となっている。実際の学生の構成は学部生6割、院生4割なので学部生と院生の割合はほぼ同じである。ただし、学年の偏りがあり、学部生の中では2年生が、院生の中では現役教員の2年生が多い。
- ・ 専攻は教科教育系と学校教育系は4割とほぼ同じ割合で、幼児教育・障害児教育系1割である。
- ・ 部活・サークルには、学部生の大多数が所属しているが、院生は所属している人が少ない。
- ・ 出身地は、大多数が上越市以外の出身者である。

図6 出身地 (全体 N=200)

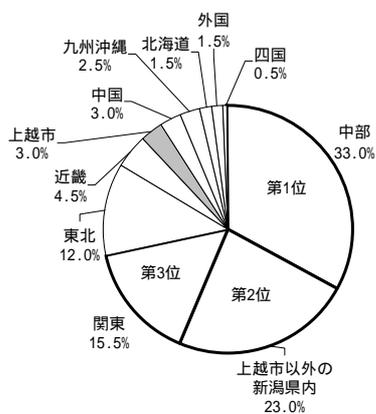


図7 出身地 (学部生 N=146)

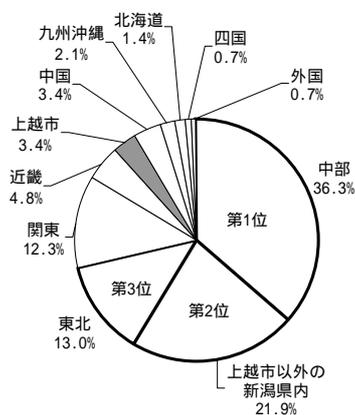
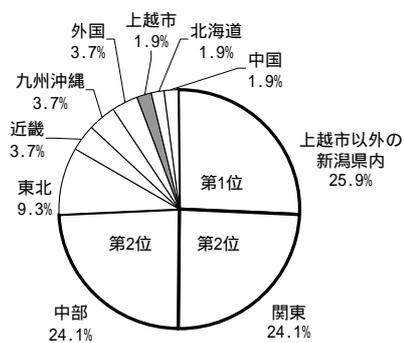


図8 出身地 (院生 N=54)



(2) 1か月の生活費(収入と支出)

1) 1か月の収入

[質問:あなたの仕送り・バイト等による収入は1か月平均いくらですか(家族で暮らしている場合はあなたの家庭全体の収入をお答えください)]

全体(図9)

- ・ 1か月の収入10万円以下が約7割である。

学部生(図10)

- ・ 「5～10万円」が最も多く、全体の約58%となっている。
- ・ 次いで、「5万円未満」(25.2%)、「10～20万円」(15.0%)となっている。
- ・ 『Campus Life Data2003 2004』(全国大学生生活協同組合連合会)によれば「1か月の生活費」は学生ひとりあたり全国平均で97,740円となっている。上教大生はこれよりも若干低いものの比較的同様の傾向にあることがうかがえる。

院生(図11)

- ・ 「20～30万円」が31.5%と最も多く、次いで「30万円以上」が22.2%である。さらに、「5～10万円」(25.9%)と続く。

学部生と院生の比較

- ・ 学部生の84%が10万円以下で生活しているのに対し、院生は66.7%が10万円以上で生活しており、収入の格差があることがわかる。

図9 収入（全体N=201）

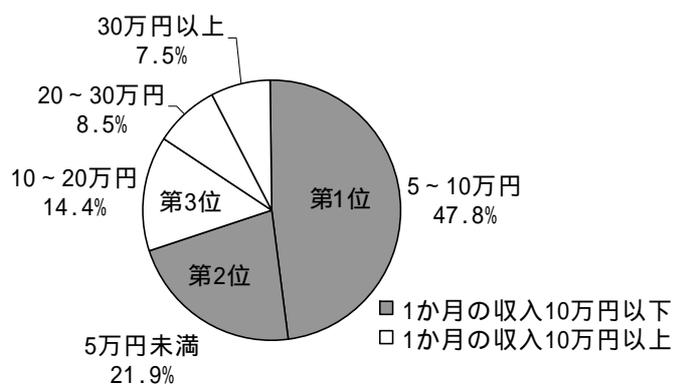


図10 収入（学部生N=147）

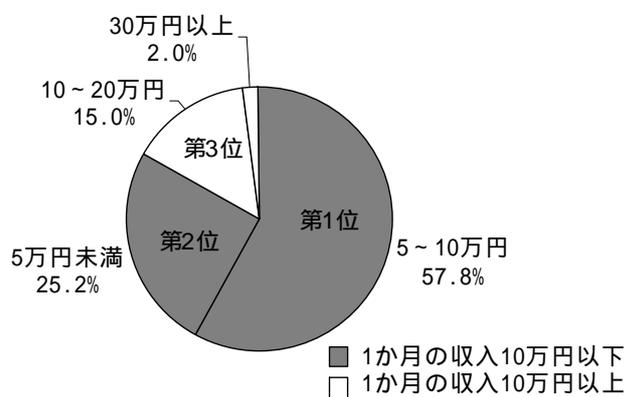
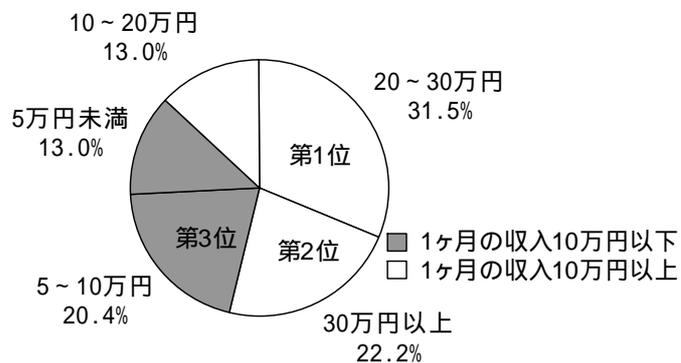


図11 収入（院生N=54）



2)収入源(図 12)

[質問:(質問 6 の)主な収入源は 何ですか。金額が大きい順に 1,2,3・・・と番号で記入してください
(1 つしかない人は 1 だけ記入してください)]

全体

- ・ 全体では、収入源第 1 位は「仕送り」(40.7%)となっている。

学部生

- ・ 学部生の収入源第 1 位は「仕送り」(50.7%)、第 2 位は「バイト」(42.5%)、第 3 位は「無し」(80.8%)となっている。

院生

- ・ 院生の収入源第 1 位は「給料」(56.6%)、第 2 位は「無し」(83.0%)となっている。

収入源第 1 位における 1 か月の収入 10 万円以下と 10 万円以上の比較(表 4)

- ・ 収入源第 1 位は、10 万円以下は仕送り、10 万円以上は給料がもっとも多い。
- ・ 学部生の約 8 割が 10 万円以下の収入、院生の約 7 割が 10 万円以上の収入、学生の大多数(97%)が上越市外出身者であることから、学生は多くの収入を市外から得ていると推測される。

図 12 収入源第 1 位から第 3 位 (全体 N=199、学部生 N=146、院生 N=53)(順位付け複数選択)

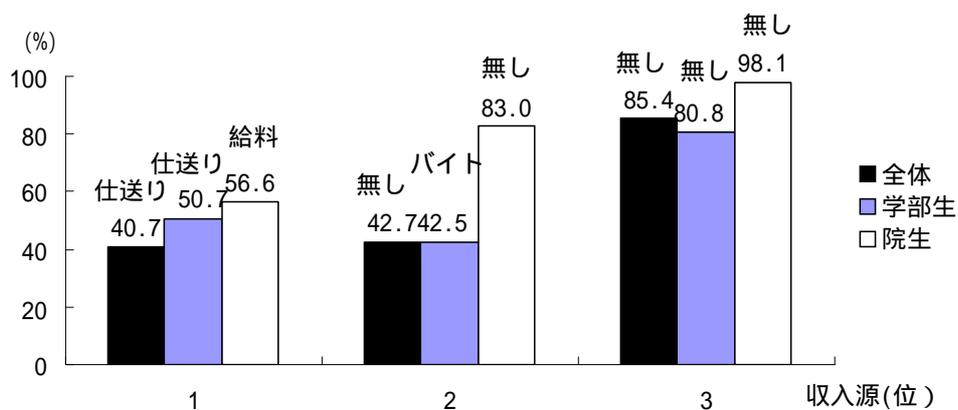


表 4 収入源第 1 位における 1 か月の収入 10 万円以下と以上別の比較 (全体 N=199)

(単位：人数)

収入源第 1 位	1 か月の収入	
	10 万円以下	10 万円以上
仕送り	68	13
バイト	30	6
奨学金	40	7
給料	1	31
その他	1	2

(注) 10 万円以上、10 万円以下別で、収入源第 1 位として答えた人が最も多い項目

3)1 か月の支出

[質問:学費と家賃・光熱費を除いて、あなたがお金をかけているものは何ですか。1番にかけている順に3つまで選び1,2,3の番号を記入してください。]

全体(図13)

- ・ 支出項目第1位は「食費」(64.2%)、第2位は「交際費」(24.1%)、第3位は「交通費」(24.1%)となっている。

学部生と院生の比較(図14)

- ・ 学部生の支出項目第1位は「食費」(66.7%)、第2位は「交際費」(27.1%)、第3位は「衣服・美容」(17.3%)となっている。
- ・ 院生の支出項目第1位は、「食費」(57.7%)、第2位は「学習・教養」(23.5%)、第3位は「交通費」(21.6%)となっている。

1か月の支出における1か月の収入10万円以下と10万円以上の比較(全体)(表5)

- ・ 支出第1位は10万円以下、以上ともに支出項目は「食費」が1位。
- ・ 支出第2位は10万円以下で支出項目は「交際費、趣味、レジャー」が多い。10万円以上では、「学習・教養」が多い。これは、学部生と院生の違いを反映している。
- ・ 支出第3位は支出項目が分散している。

4)まとめ

- ・ 学部生と院生には収入の格差がある。学部生は月10万円以下、院生は月10万円以上で生活している人が多い。
- ・ 学生の支出は食費が圧倒的に多い。次いで学部生は交際費、衣服・美容費、院生は学習・教養費、交通費となっている。これらの食費以外の消費活動が上越市内で行われれば、地域経済に及ぼす影響は大きいものと思われる。

5)考察

- ・ 院生は現職教員が多く、固定的な給与所得が得られるために比較的高額の収入があるものと推測される。
- ・ 学部生は、主に仕送りとバイトによる収入で生活していることが伺える。
- ・ 院生は主に給料で生活していることが伺える。これは回答した院生の69.6%が現職教員であることが影響している。

図13 1か月の支出第1位から第3位(全体N=193)(上位3つを順位づけ)

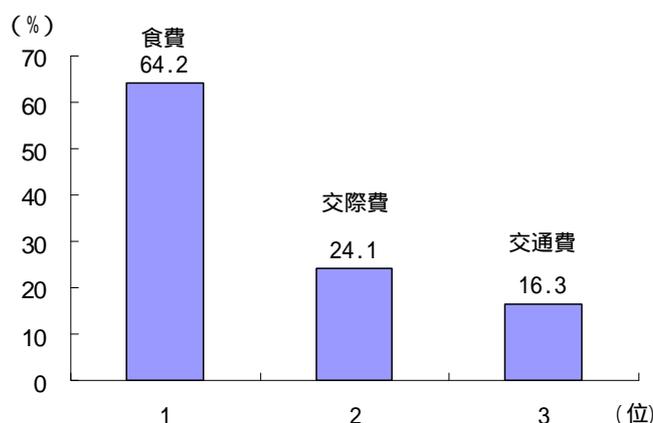


図14 1か月の支出第1位から第3位(学部生N=141、院生N=52)(上位3つを順位づけ)

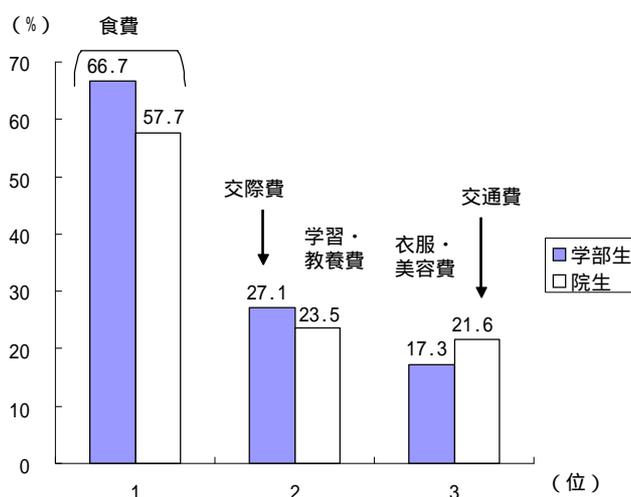


表5 1か月の収入における10万円以上と以下と支出の比較(全体) (単位:人、%)

支出項目	支出第1位		支出第2位		支出第3位	
	収入 10万円以下	収入 10万円以上	収入 10万円以下	収入 10万円以上	収入 10万円以下	収入 10万円以上
食費	97(72)	27(47)	22(17)	8(16)	12(20)	7(14)
交際費	6(5)	2(4)	42(32)	4(8)	16(14)	9(18)
通信費	2(2)	0(0)	9(7)	5(10)	6(5)	7(14)
衣服・美容	9(7)	2(4)	16(12)	7(14)	21(18)	6(12)
学習・教養	6(5)	5(9)	5(4)	11(22)	13(11)	4(2)
趣味・レジャー	6(5)	7(12)	22(17)	8(16)	21(18)	7(14)
交通費	1(1)	7(12)	13(10)	6(12)	23(20)	8(16)
貯金	7(6)	8(2)	3(3)	1(2)	7(6)	3(6)
その他	1(1)	0(0)	3(3)	1(2)	1(1)	0(0)
小計	135(100)	58(100)	135(100)	51(100)	120(100)	51(100)
計		193		186		171

(3)行動実態

1)ショッピング

[質問:主にどこでショッピングをしますか(日用品以外の物)(3つ選択)]

全体(図 15)

- ・ ショッピングをする場所は、第1位「ジャスコやウイングマーケット周辺」(82.2%)、第2位「帰省先または帰省途中」(56.4%)、第3位「上越大通りや山麓線など幹線道路沿い」(35.1%)となっている。
- ・ 高田地区商店街でショッピングをする人は帰省先でショッピングをしない。
- ・ 直江津地区商店街でショッピングをする人は帰省先でショッピングをしない。
- ・ ジャスコやウイングマーケット周辺でショッピングをする人は、上越大通り・山麓線など幹線道路沿いでショッピングをする。
- ・ 上越大通り・山麓線など幹線道路沿いでショッピングをする人は、新潟市でショッピングをしない。
- ・ 帰省先でショッピングをする人は長岡市でショッピングをしない。

(注)ショッピングの場所の関連性については、関連性の強さを示す係数が0.25以上0.3未満のもの(1に近づくほど関連が強い)

学部生(図 16)

- ・ 第1位は「ジャスコやウイングマーケット周辺」(81.1%)、第2位は「帰省先または帰省途中」(59.5%)、第3位は「新潟市」(32.4%)となっている。
- ・ ジャスコが飛びぬけて多い。
- ・ 回答者数によってグループ分けすると、第1グループ「ジャスコやウイングマーケット周辺」、第2グループ「帰省先または帰省途中」、第3グループ「新潟市、上越大通りや山麓線など幹線道路沿い」となる。

院生(図 17)

- ・ 第1位は「ジャスコやウイングマーケット周辺」(85.2%)、第2位「帰省先または帰省途中」(48.1%)、第3位は「上越大通りや山麓線など幹線道路沿い」(44.4%)となっている。
- ・ 回答者数によってグループ分けすると、第1グループ「ジャスコやウイングマーケット周辺」、第2グループ「帰省先または帰省途中、上越大通りや山麓線など幹線道路沿い」となる。

図15 ショッピングをする場所（全体）（3つ選択）

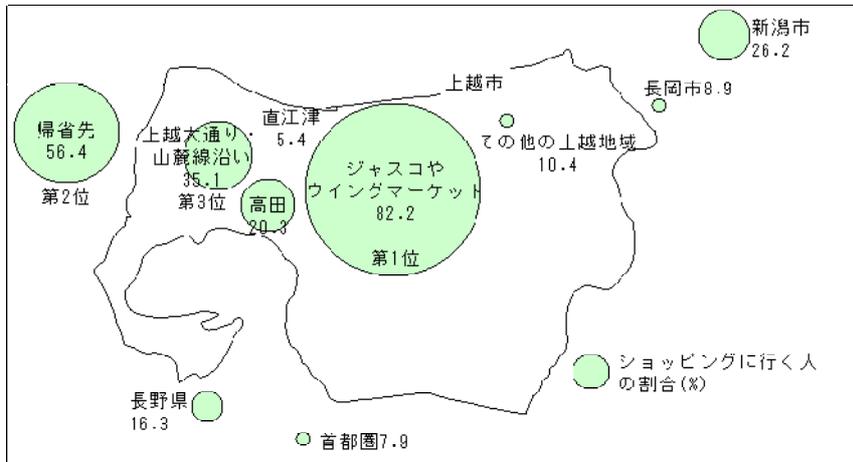


図16 ショッピングをする場所（学部生）（3つ選択）

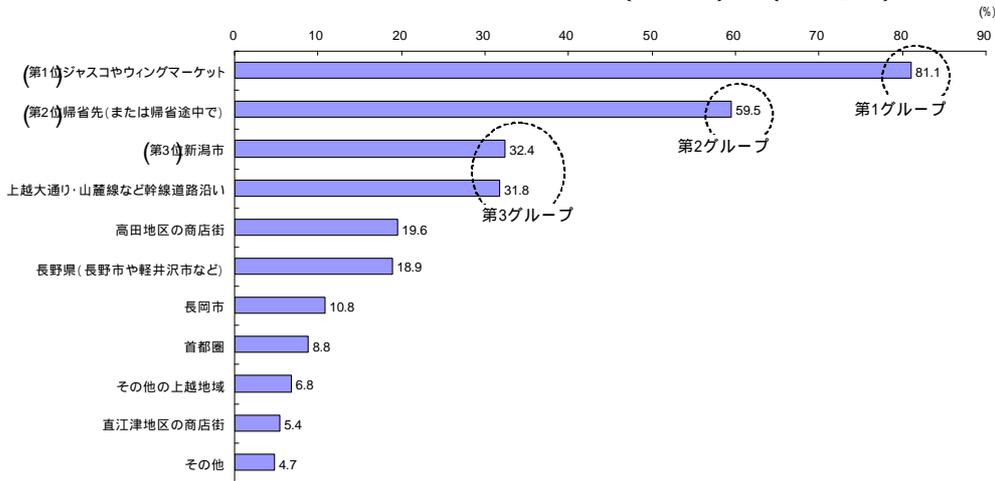
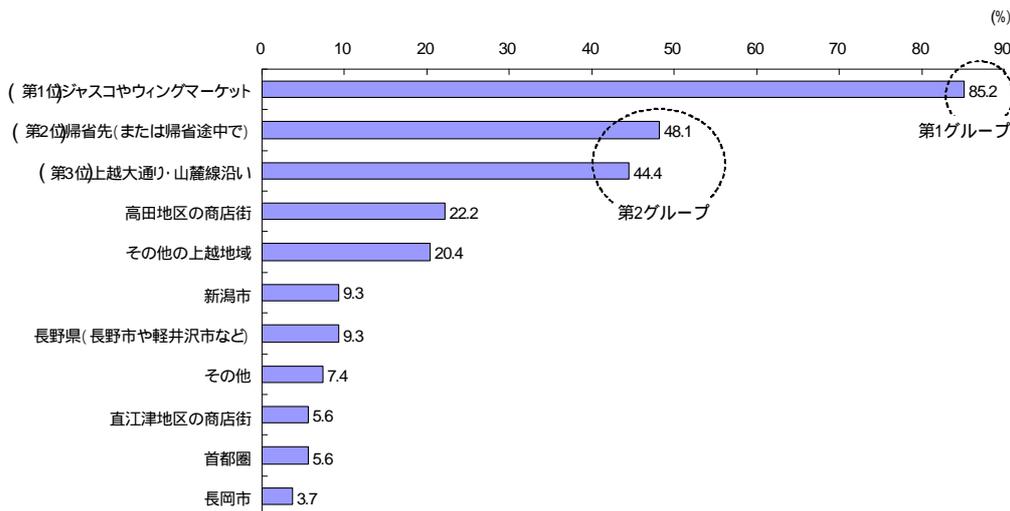


図17 ショッピングをする場所（院生）（3つ選択）



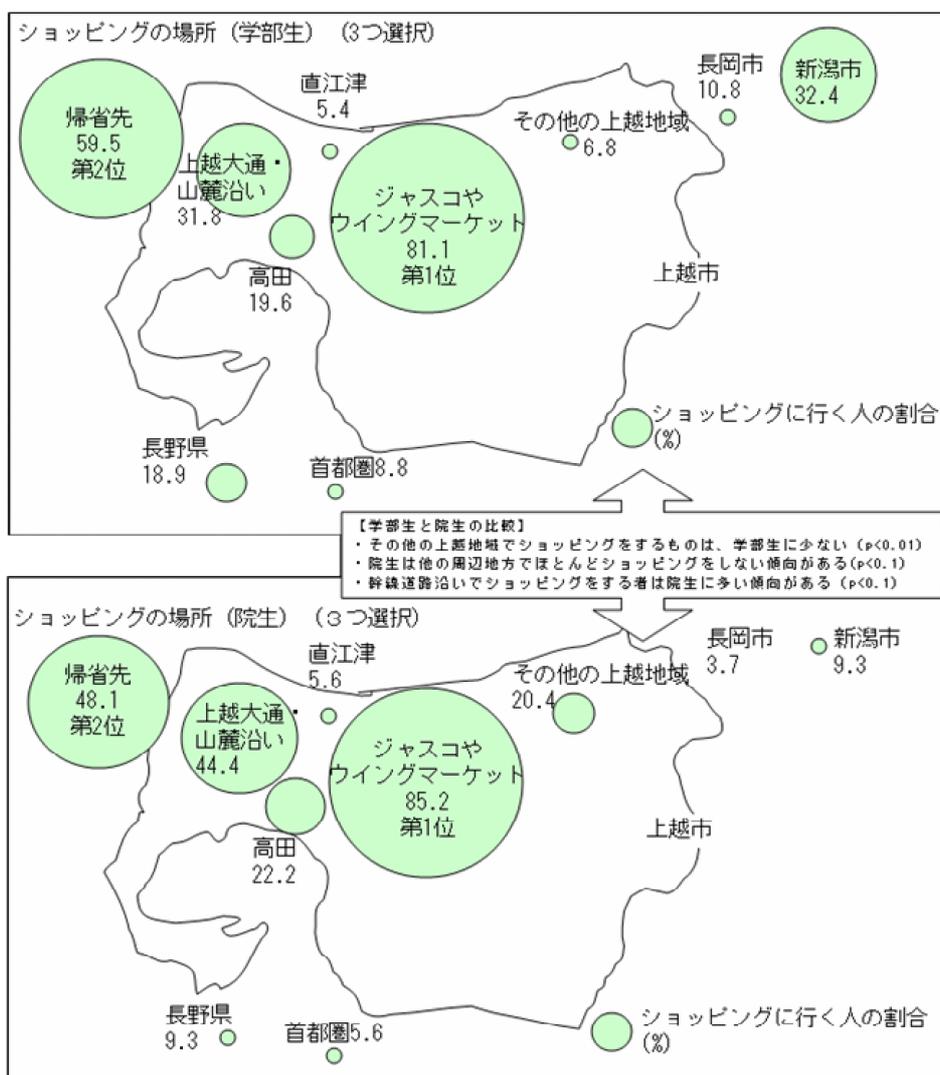
学部生と院生の比較(図 18)

- 上位2項目は学部生、院生ともにと共通しており第1位「ジャスコやウイングマーケット周辺」、第2位「帰省先」となっている。
- ジャスコやウイングマーケット周辺及び高田・直江津地区、上越大通り・山麓線沿い以外の上越地域でショッピングする学部生は院生と比較して少ない。
- 学部生と比べて院生は、上越地域以外(新潟市、長岡市、長野県)ではほとんどショッピングしない傾向がある。
- 幹線道路沿いでショッピングする人は、学部生と比べて院生に多い傾向がある。

交通手段とショッピングの場所の比較(表 6)

- 学部生・院生を問わず、交通手段とショッピングの場所を比較したところ、交通手段が「徒歩もしくはバス利用者」は上越大通りや山麓線等の幹線道路沿いでショッピングをしない。

図18 ショッピングをする場所における学部生と院生の比較(3つ選択)



(注) p: 有意性を示す係数。P<0.1は有意(12ページ参照)

表6 交通手段とショッピングの場所の比較(全体)(単位:人)

徒歩	幹線道路沿いでショッピング	
	しない	する
歩かない	66	44
歩く	65	27

(注) ショッピングの場所3つ、交通手段2つ選択
: 有意に多い($p < 0.1$) (12ページ参照) 有意な項目のみ表示

バス	幹線道路沿いでショッピング	
	しない	する
乗らない	107	65
乗る	24	6

(注) ショッピングの場所3つ、交通手段2つ選択
: 有意に多い($p < 0.05$) (12ページ参照) 有意な項目のみ表示

2)よく行くところ

[質問: 普段、時間ができたときあなたが「よく行くところ」はどこですか(複数選択)]

全体(図 19、20)

- ・ 学生がよく行くところをグループ分けすると、第1グループ「本屋・コンビニ」(49.5%)、第2グループ「友人のところ」(39.1%)、第3グループ「図書館、ゲーセン・パチンコ、ドライブ・温泉」となる。
- ・ エリア別にみると学生は、比較的大学周辺及び中心市街地の限られた場所によく行く。
- ・ 直江津地区の飲食店によく行く人は、高田地区の飲食店にもよく行く。
- ・ 高田地区の飲食店によく行く人は、大学周辺の飲食店にもよく行く。
- ・ 直江津地区の飲食店によく行く人は、大学周辺の飲食店にもよく行く。
- ・ 図書館によく行く人とゲームセンターによく行く人は異なる。

(注)よく行くところの関連性については、関連性の強さを示す係数が0.25以上のもの(1に近づくほど関連が強い)

図19 よく行くところ(全体) (複数選択)

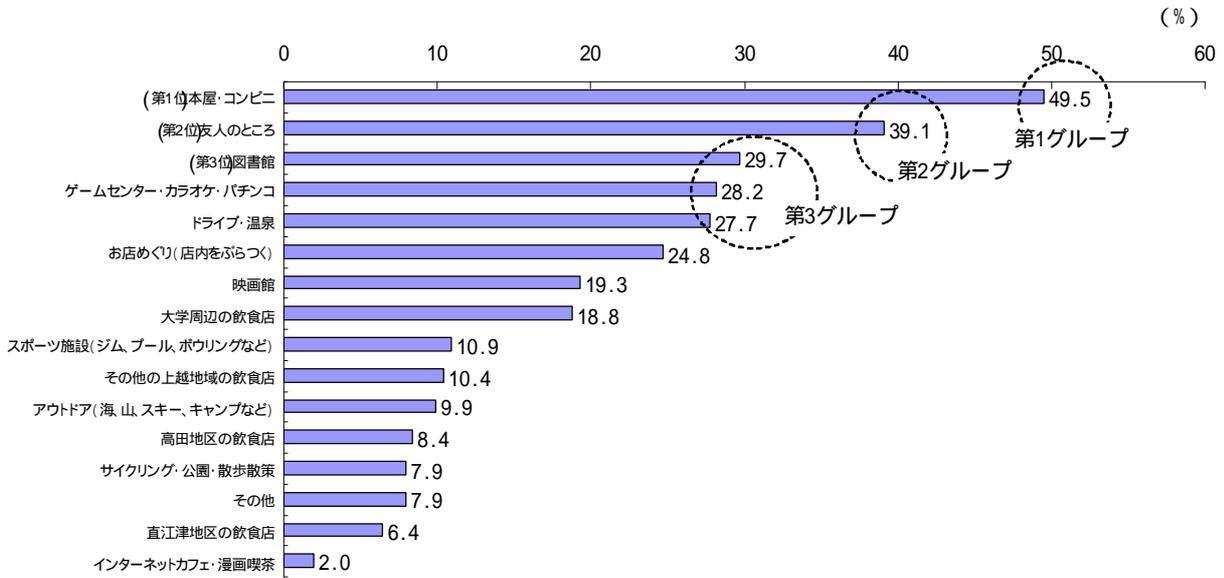
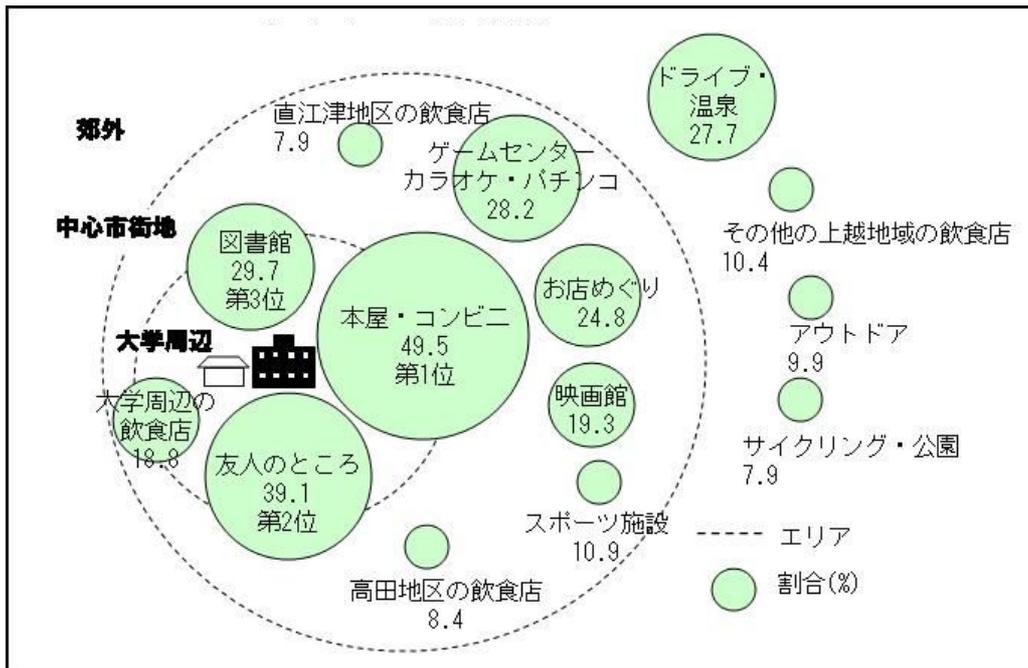


図20 よく行くところの比較(全体) (複数選択)



学部生(図 21)

- ・ 第1位は「友人のところ」(49.3%)、第2位「本屋、コンビニ」(46.6%)、第3位「ゲームセンター、カラオケ、パチンコ」(33.1%)となっている。
- ・ 回答者数でグループ分けすると、第1グループ「友人のところ、本屋コンビニ」、第2グループ「ゲームセンター・カラオケ・パチンコ」、第3グループ「お店めぐり、図書館、ドライブ・温泉」となっている。

院生(図 22)

- ・ 第1位「本屋、コンビニ」(57.4%)、第2位「ドライブ、温泉」(35.2%)、第3位「スポーツ施設」(20.4%)となっている。
- ・ 回答者数でグループ分けすると、第1グループ「本屋、コンビニ」、第2グループ「ドライブ・温泉」、その他となる。

学部生と院生の比較(表 7)

- ・ 図書館によく行く人は、学部生と比べて院生に多い。
- ・ スポーツ施設によく行く人は、学部生と比べて院生に多い。
- ・ スポーツ施設によく行く人は、学部生と比べて院生に多い。
- ・ 友人のところに行く人は、院生と比べて学部生に多い。
- ・ ゲームセンターによく行く人は、院生と比べて学部生に多い。

図21 よく行くところ(学部生)(複数選択)

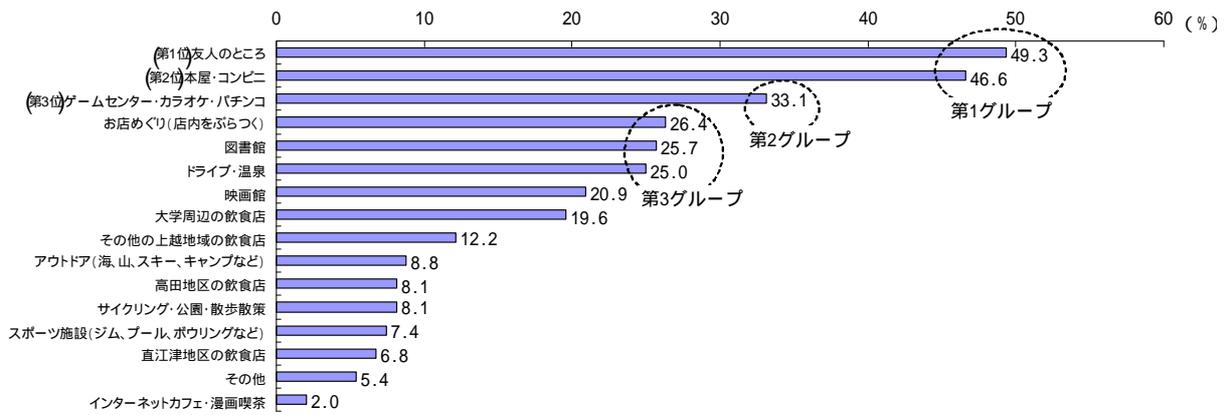


図22 よく行くところ(院生)(複数選択)

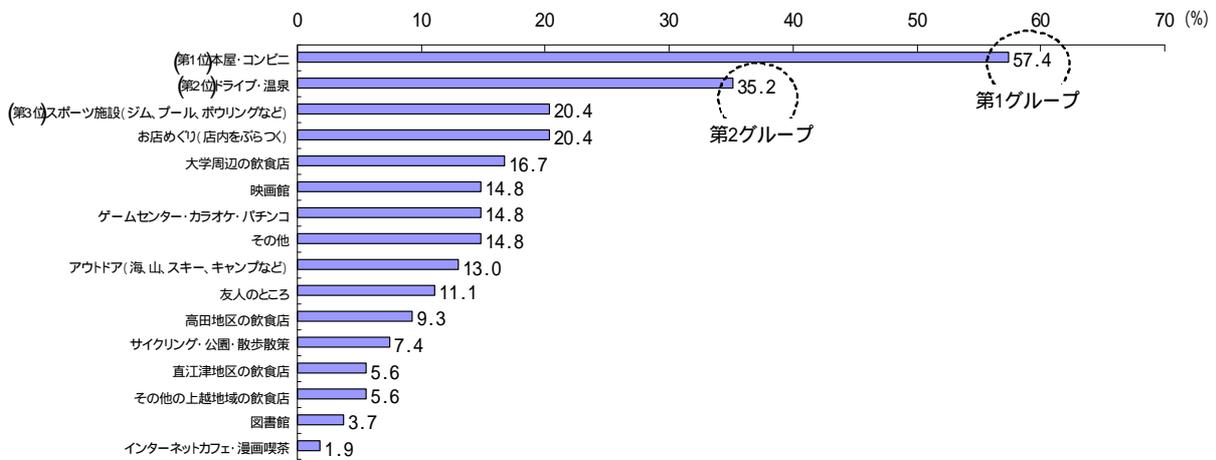


表7 よく行くところにおける学部生と院生の比較 (単位:人、複数回答)

	図書館	スポーツ施設	友人のところ	ゲームセンター等	総人数
学部生	38	11	73	49	148
院生	22	11	6	8	54

(注) :有意に多い($p < 0.05$) (12ページ参照)
有意な項目のみ表示

3)交通手段

[質問: 普段の主な交通手段は何ですか(2つ選択)]

全体(図 23)

・ 第1位「自動車」(64.4%)、第2位「徒歩」(45.5%)、第3位「自転車」(37.6%)となっている。

学部生(図 24)

・ 第1位「自動車」(57.4%)、第2位「自転車」(46.6%)、第3位「徒歩」(45.3%)となっている。

院生(図 25)

・ 第1位「自動車」(83.3%)、第2位「徒歩」(46.3%)、第3位「自転車」(13%)となっている。

学部生と院生の比較(表 8)

- ・ 自転車を利用する人は、学部生の方が多い。
- ・ 車をよく利用する人は、学部生と比べて院生の方が多い。
- ・ バスを利用する人は、学部生の方が多い。

4)交通手段と出身地の関連(学部生)

- ・ 特に傾向はない。

5)まとめ

- ・ 学生の行動範囲は一定の場所に限定されている。ショッピングはジャスコやウィングマーケット周辺もしくは、帰省先で行い、高田・直江津商店街でショッピングを行う人は少ない。
- ・ これらの行動パターンに対して的確に情報を流すことで学生の関心を集めることができるのではないだろうか。

6)考察

- ・ 飲食店によく行く人は、そのお店が大学の近くではなくてもおいしいものがあれば行こうとしている。同様に、大学生が関心を持ちかつ欲求を満たすものであれば多少大学から離れても中心市街地までの距離程度であれば学生を呼び寄せる可能性を持っていると推測される。
- ・ 学部生は暇なときに気軽に立ち寄ることができる場所や情報があるところに集まる傾向がある。このようなときに上越市の情報を検索できるよう工夫すると効果的と考えられる。

図23 交通手段(全体)(2つ選択)

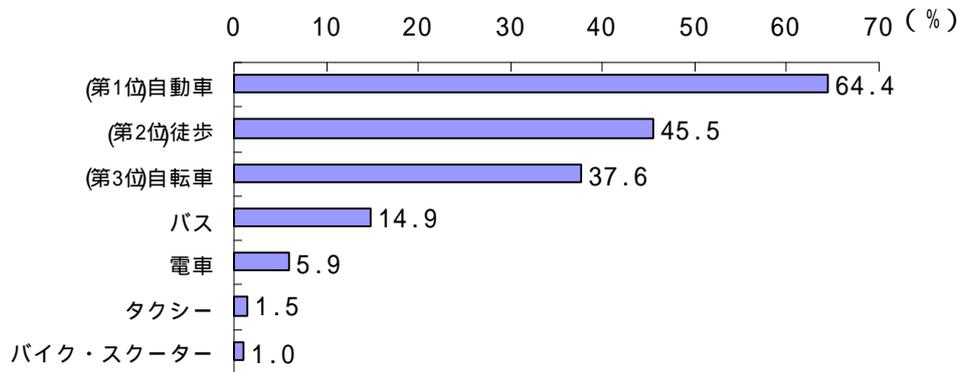


図24 交通手段(学部生)(2つ選択)

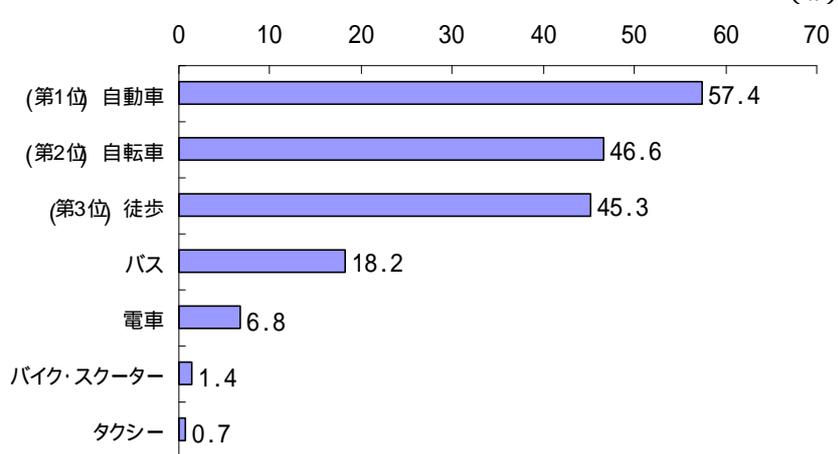


図25 交通手段(院生)(2つ選択)

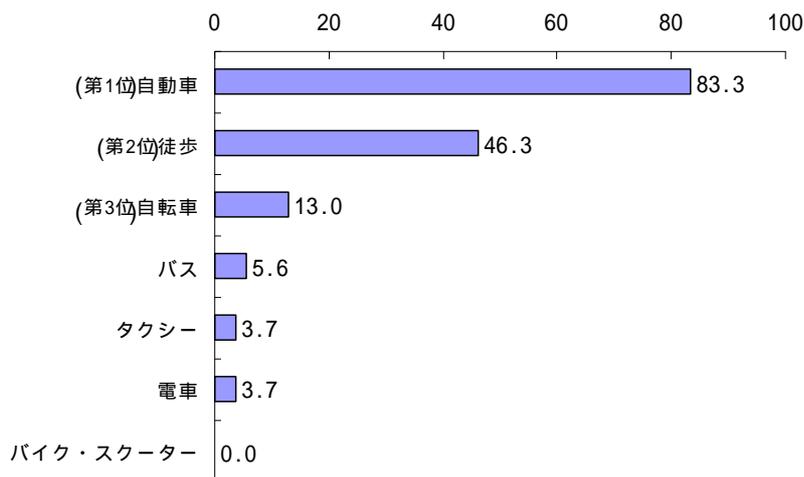


表8 交通手段における学部生と院生の比較(複数選択)

	自転車	自動車	バス	総人数
学部生	69	85	27	148
院生	7	45	3	54

(注) : 有意に多い ($p < 0.05$) (12ページ参照)
有意な項目のみ表示

(4)住居

1)住まいの形態

[質問:あなたは現在、どのような住宅にお住まいですか(1つ選択)]

全体(図 26)

- ・ 第1位は「学生宿舎」(71.8%)、第2位は「アパート・マンション」(21.8%)である。

学部生(図 27)

- ・ 第1位は「学生宿舎」(75.7%)、第2位「アパート・マンション」(19.6%)である。

院生(図 28)

- ・ 第1位「学生宿舎」(61.1%)、第2位「アパート・マンション」(27.8%)である。

2)居住地

[質問:あなたは現在、どこにお住まいですか(1つ選択)]

全体(図 29)

- ・ 大多数(85.9%)が大学から半径1km以内に居住している。

学部生(図 30)

- ・ 多数(93.8%)が大学から半径1km以内に居住している。

院生(図 31)

- ・ 第1位「大学から半径1km以内」(77.4%)、第2位「その他の上越市内」(15.1%)、第3位「高田・直江津の中心市街地」(5.7%)である。

3)まとめ

- ・ 学生の大多数が大学周辺に住居がある。

4)考察

- ・ アパート・マンションで生活している2割の学生に対し、より魅力的な住居を提供することができれば、中心市街地の住宅への入居の可能性はあるのではないかと期待できる。

図26 住まいの形態 (全体 N=202)

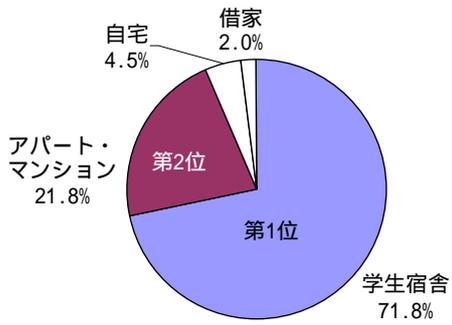


図27 住まいの形態 (学部生 N=148)

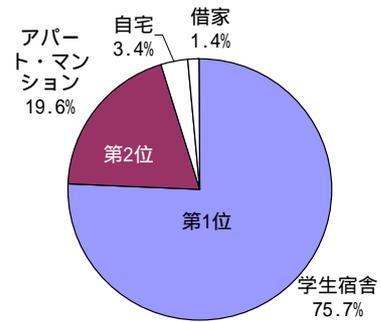


図28 住まいの形態 (院生 N=54)

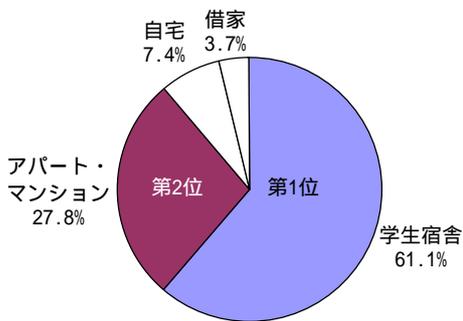


図29 居住地 (全体 N=199)

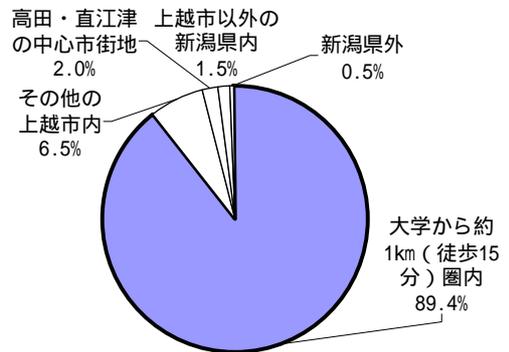


図30 居住地 (学部生 N=146)

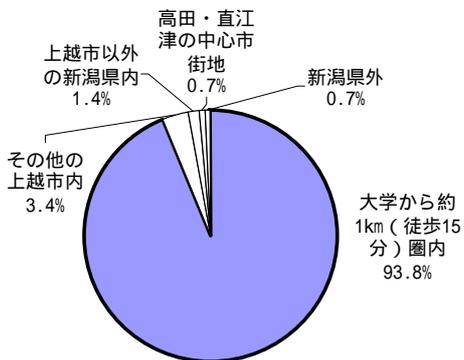
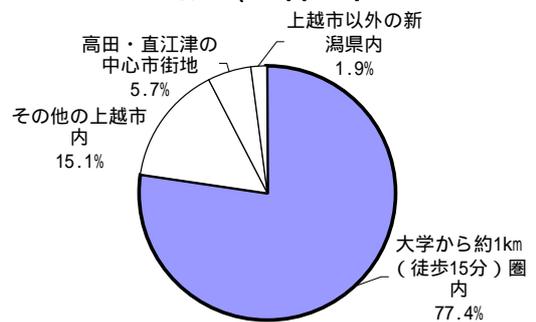


図31 居住地 (院生 N=53)



(5)地域との関わり

1)参加したイベント

[質問:上越市内のイベントで参加したことがあるものはどれですか(複数選択)]

全体(図 32)

- ・ 第1位「4月の観桜会」(67.3%) 第2位「7月の上越祭り・花火大会」(30.7%) 第3位「高田・直江津の朝市」(7.4%)となっている。
- ・ 「4月の観桜会」が突出して多く、次に「7月の上越祭り・花火大会」となっている。

学部生(図 33)

- ・ 第1位「4月の観桜会」(70.3%) 第2位「7月の上越祭り・花火大会」(33.1%) 第3位「高田・直江津の朝市」(7.1%)となっている。
- ・ 「4月の観桜会」が突出して多く、次に「7月の上越祭り・花火大会」となっている。

院生(図 34)

- ・ 第1位「4月の観桜会」(59.3%) 第2位「7月の上越祭り・花火大会」(24.1%) 第3位「8月の謙信公祭」(13.0%)となっている。
- ・ 第1位の観桜会が突出して多い。

学部生と院生の比較等(表 9、10)

- ・ 観桜会には、院生と比べて学部生の方が多く参加している傾向がある。
- ・ 観桜会には、部活に所属している方が多く参加している。

図32 参加したイベント（全体）（複数選択）

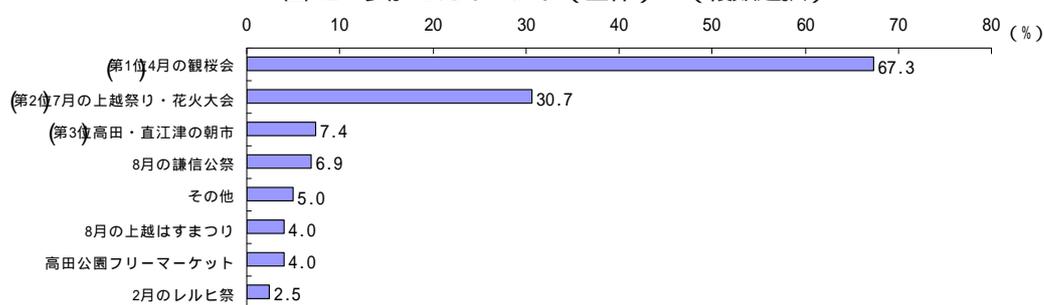


図33 参加したイベント（学部生）（複数選択）

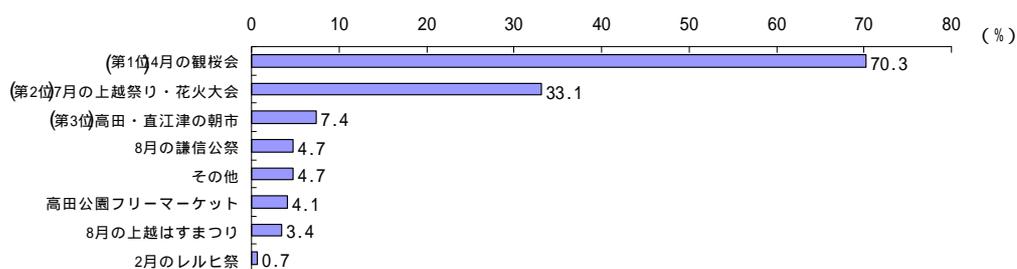


図34 参加したイベント（院生）（複数選択）

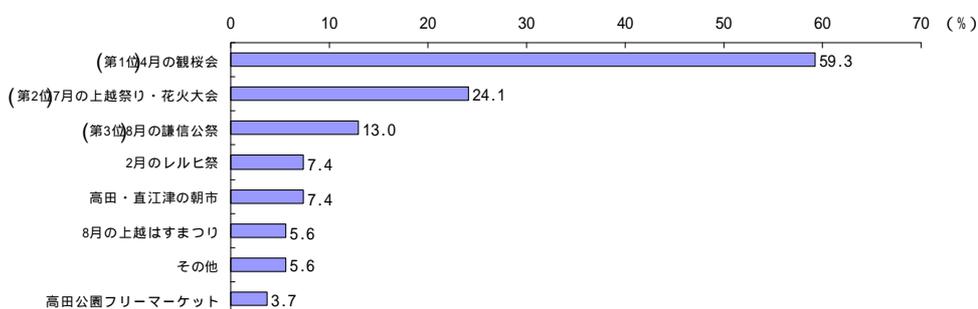


表9 参加したイベントにおける学部生と院生の比較（複数選択）

(単位：人)

	観桜会	総数
学部生	104	148
院生	32	54

(注) : 有意に多い ($p < 0.1$) (12ページ参照)
有意な項目のみ表示

表10 参加したイベントにおける部活所属学生と未所属学生の比較（複数選択）

(単位：人)

	観桜会	総数
部活所属	105	147
部活未所属	31	55

(注) : 有意に多い ($p < 0.05$) (12ページ参照)
有意な項目のみ表示

2) イベント情報の入手手段(図 35)

[質問: 上越市のイベント情報や観光情報をどのようにして手に入れていますか(複数選択)]

全体

- ・ 第1位「口コミ」(46.6%)、学内の掲示板(23.8%)、市の広報誌(23.3%)となっている。

学部生

- ・ 第1位「口コミ」(48.6%)、第2位「学内の掲示板」(29.1%)、第3位「新聞・ラジオ・テレビ」(20.3%)となっている。

院生

- ・ 第1位「口コミ」(40.7%)、第2位「市の広報誌」(38.9%)、第3位「タウン情報誌」(33.3%)となっている。

学部生と院生の比較(表 11)

- ・ 市の広報誌から情報を得る人は、学部生と比べて院生の方が多い。
- ・ 学内の掲示板から情報を得る人は、院生と比べて学部生の方が多い。
- ・ タウン情報誌をよく読む人は、学部生と比べて院生に多い。
- ・ インターネットから情報を得る人は、学部生と比べて院生に多い。

図 35 イベント情報の入手手段第1位から第3位（複数選択）

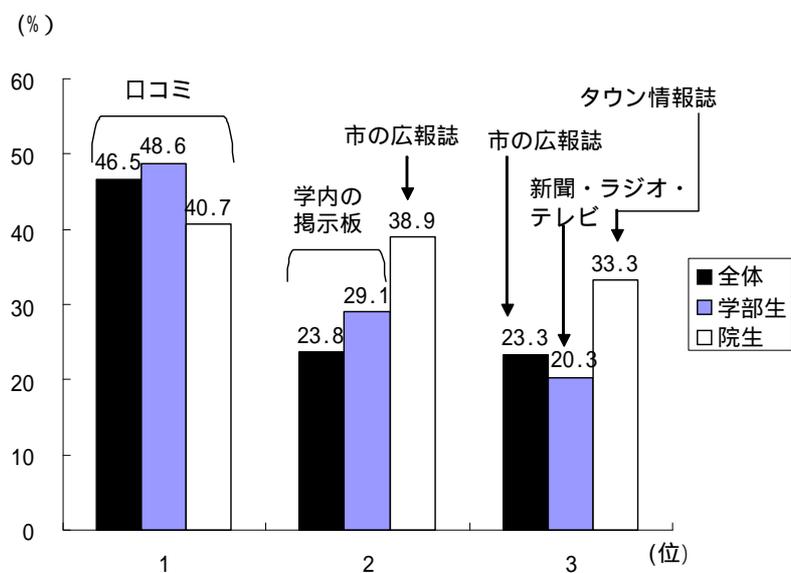


表 11 イベント情報源における学部生と院生の比較（複数選択）

（単位：人）

	市の広報誌	学内の掲示板上	タウン情報誌	インターネット	総数
学部生	26	43	25	21	148
院生	21	5	18	17	54

（注）：有意に多い(p<0.05)（12ページ参照）
有意な項目のみ表示

3) 参加したイベントのまとめ

イベント参加(全体)(図 36)

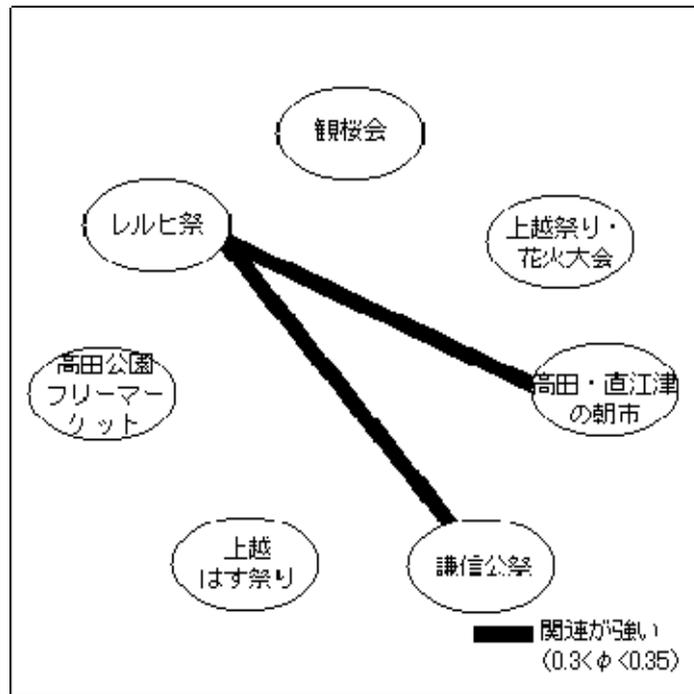
- ・ レルヒ祭と謙信公祭りに参加する人には関連が強い。
- ・ レルヒ祭と高田・直江津の朝市に行く人には関連が強い。

(注)参加したイベントの関連性については、関連性の強さを示す係数が0.3以上0.35未満のもの(1に近づくほど関連が強い)

参加したイベントと情報入手手段の関連(全体)(表 12)

- ・ 謙信公祭りに参加した人たちは、市の広報誌からイベント情報を得ていた。
- ・ 上越祭り・花火大会に参加した人たちは、市の広報誌、タウン情報誌から情報を得ていた。
- ・ レルヒ祭りに参加した人たちは、市の広報誌、タウン情報誌、インターネットから情報を得ていた。
- ・ 朝市に参加した人は、市の広報誌から情報を得ていた。
- ・ レルヒ祭りに参加した人は、タウン情報誌から情報を得ていた。

図 36 参加したイベントの関連図(全体) (複数選択)



(注) ϕ : 関連性の強さを示す係数 (1 に近づくほど関連が強い)
 $p < 0.05$ (12 ページ参照)

表 12 参加したイベントとイベント情報源の関連(全体) (複数選択)

参加した イベント	イベント情報入手手段			
	市の広報誌	タウン情報誌	インターネット	新聞・ラジオ・ テレビ
観桜会				
謙信公祭				
上越祭り・花火大会				
レルヒ祭				
朝市				
上越はすまつり				

(注) : 有意である ($p < 0.05$) (有力な情報入手手段)
 : 有意な傾向がある ($p < 0.1$) (情報入手手段)
 (12 ページ参照)
 有意な項目のみ表示

4)参加したいイベント

[質問:上越市内のイベントで参加してみたいものはどれですか(複数選択)]

全体(図 37、38)

- ・ 第1位「伝統行事(お祭り・花火大会を含む)」(61.4%)、第2位「フリーマーケット」(38.1%)、第3位「音楽イベント」(32.2%)となっている。
- ・ 回答者数で分けると、第1グループ「伝統行事(お祭り・花火大会を含む)」、第2グループ「フリーマーケット、音楽イベント」となる。
- ・ 産業フェア、環境イベント、農業イベントに参加したい人は関心のあるイベントが共通している。
- ・ 教育・文化イベントに関心がある人は、環境イベントにも関心を示す。

(注)参加したいイベントの関連性については、関連性の強さを示す係数が0.25以上0.5未満のもの(1に近づくほど関連が強い)

学部生(図 39)

- ・ 第1位「伝統行事(お祭り・花火大会を含む)」(63.5%)、第2位「フリーマーケット」(43.9%)、第3位「音楽イベント」(35.8%)となっている。
- ・ 回答者数で分けると、第1グループ「伝統行事(お祭り・花火大会を含む)」、第2グループ「フリーマーケット、音楽イベント」となる。

院生(図 40)

- ・ 第1位「伝統行事(お祭り・花火大会を含む)」(55.6%)、第2位「教育・文化イベント」(46.3%)、第3位「スポーツイベント」(27.8%)となっている。
- ・ 第1位と第2位は約半分の人が参加したいと答えているが、それ以外については少ない。

図 37 参加したいイベント(全体)(複数選択)

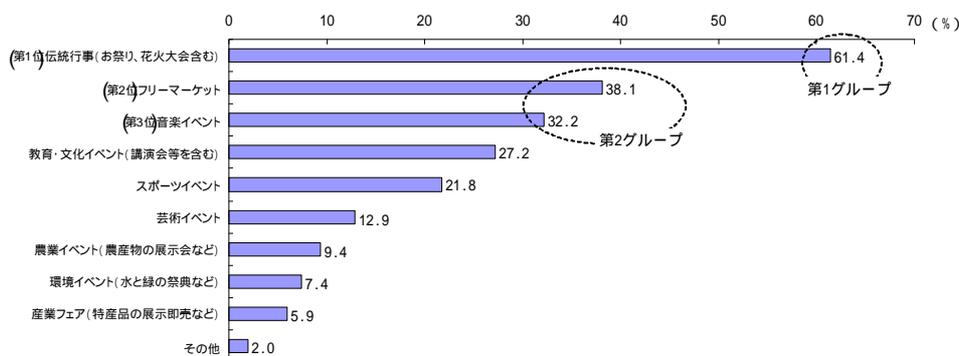
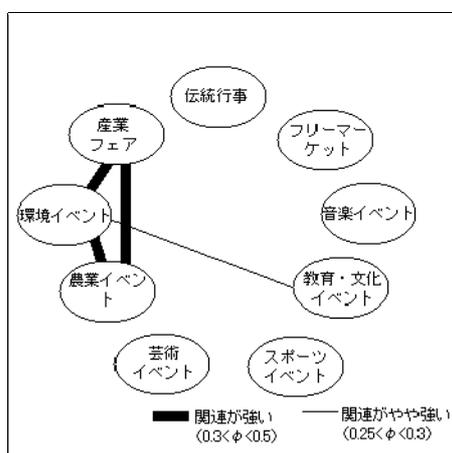


図 38 参加したいイベントの関連図(全体)(複数選択)



(注) : 関連性の強さを示す係数(1に近づくほど関連が強い)
 ($p < 0.05$) (12ページ参照)

図 39 参加したいイベント(学部生)(複数選択)

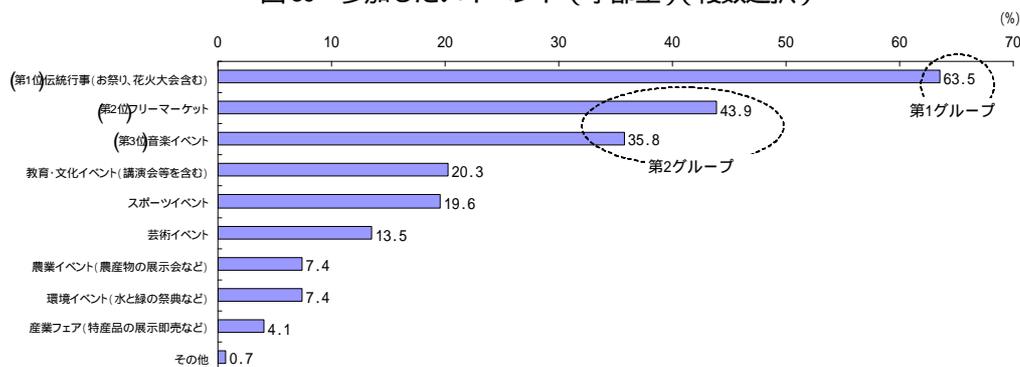
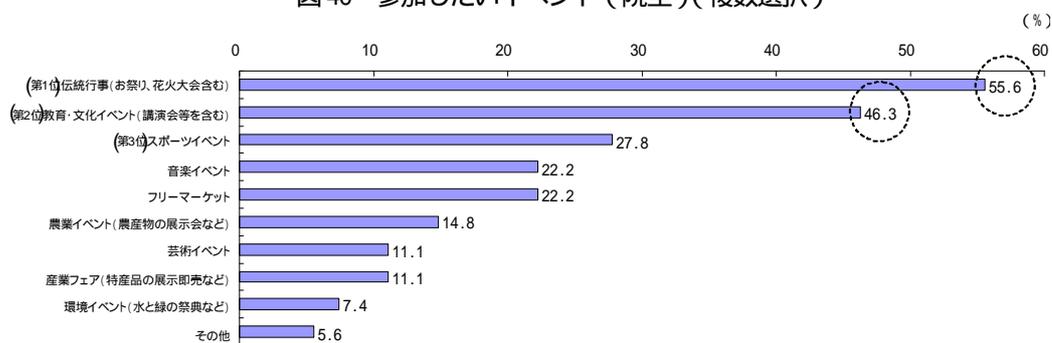


図 40 参加したいイベント(院生)(複数選択)



学部生と院生の比較(表 13)

- ・ 音楽イベントに参加してみたい人は、院生と比べて学部生に多い。
- ・ フリーマーケットに参加してみたい人は、院生と比べて学部生に多い。
- ・ 産業フェアに参加してみたい人は、学部生と比べて院生に多い。
- ・ 教育・文化イベントに参加してみたい人は、学部生と比べて院生に多い。

参加したいイベントと所属の関連

- ・ 参加したいイベントと所属している専攻の間に関連はない。

参加したいイベントと学年の関連

- ・ 学部2年生は、他学年と比べてフリーマーケットに参加したい人は多い。
- ・ 院生の現職1年生は、他学年と比べて、教育・文化イベントに参加したい人が多い。

5)まとめ

- ・ 観桜会や上越祭り・花火大会など大きなイベントには参加したことがある学生が多い
- ・ 口コミによってイベント情報を得る人が多い。
- ・ 市の広報誌をよく読む人は様々なイベントに参加している傾向があるため、広報の徹底を図ることで参加者を増やすことができると期待できる。
- ・ フリーマーケットに関しては、参加経験はないものの関心は高いので学生向けに企画したり既存のイベントをお知らせしたりすることで参加者が増えることが期待できる。

6)考察

- ・ フリーマーケットが現実と希望のギャップがある(単純集計「参加したイベント参加したいイベント」)。つまり、参加したいと思うイベントを開催すれば参加者が必然的に増える。
- ・ 例えば、上教大と看護大とも10月に開催している学園祭(学生が盛り上がるイベントの一つ)の前夜祭をまちのイベントと共に開催するなどジョイント方法に工夫を持たせると参加者が増えると推測される。
- ・ 地域密着型のイベントでもレルヒ祭や謙信公祭など歴史や文化のあるイベントに対しては同様に興味を持つ人がいる。このようなイベントに興味を持つ人に対し、その他の歴史・文化を感じることができるイベントを紹介すると効果的と考えられる。
- ・ 市の広報誌はイベント参加につながるという結果から、これは有効な情報伝達手段の一つとして考えられる。市の広報誌は主に町内会を通じて配布している。また、希望に応じて配布もしている。町内会に属さない学生(単身用学生宿舎)などにも市からの情報がいきわたるよう改善する必要がある。

表12 参加したいイベントにおける学部生と院生の比較（複数回答）

（単位：人）

	音楽 イベント	フリー マーケット	産業フェア	教育文化 イベント	総人数
学部生	53	65	6	30	148
院生	12	12	6	25	54

（注）：有意に多い($p<0.1$)（12ページ参照）
有意な項目のみ表示

(6) ボランティア

1) 過去・現在の活動経験と今後参加の希望

[質問: 過去、ボランティア活動に参加していた、もしくは現在参加していますか(過去とは大学・大学院入学前、現在とは入学から今まで)(複数選択)、今後参加したいボランティア活動はありますか(複数選択)]

全体(図 41)

- ・ 入学前の過去の経験は、第1位「幼児・児童支援」(21.8%)、第2位「環境保護・リサイクル」(17.8%)となっている。
- ・ 在学中の経験は、第1位「幼児・児童支援」(20.3%)、第2位「スポーツ指導」(8.4%)、第3位「障害者支援」(6.9%)となっている。
- ・ 今後の参加希望は、第1位「幼児・児童支援」(59.4%)、第2位「災害復興支援」(24.3%)、第3位「障害者支援」(23.0%)となっている。

学部生(図 42)

- ・ 入学前の過去の経験は、第1位「幼児・児童支援」(23.6%)、第2位「障害者支援」(20.3%)、第3位「環境保護・リサイクル」(18.9%)となっている。
- ・ 在学中の経験は、第1位「幼児・児童支援」(25.7%)、第2位「スポーツ指導」(10.1%)、第3位「障害者支援」(7.4%)となっている。
- ・ 今後の参加希望は、第1位「幼児・児童支援」(66.9%)、第2位「災害復興支援」(31.1%)、第3位「障害者支援」(23.0%)となっている。

院生(図 43)

- ・ 入学前の過去の経験は、第1位「障害者支援」(25.9%)、第2位「災害復興支援」(22.2%)、第3位「幼児・児童支援」(16.7%)となっている。
- ・ 在学中の経験は、第1位「災害復興支援」(7.4%)、第2位「町内会活動の支援」(5.6%)、「幼児・児童支援」(5.6%)、「障害者支援」(5.6%)となっている。
- ・ 今後の参加希望は、第1位「幼児・児童支援」(38.9%)、第2位「災害復興支援」(37.0%)、第3位「外国人支援」(29.6%)となっている。

図41 ボランティアに関する入前・在学中の経験と今後の参加希望(全体)(複数選択)

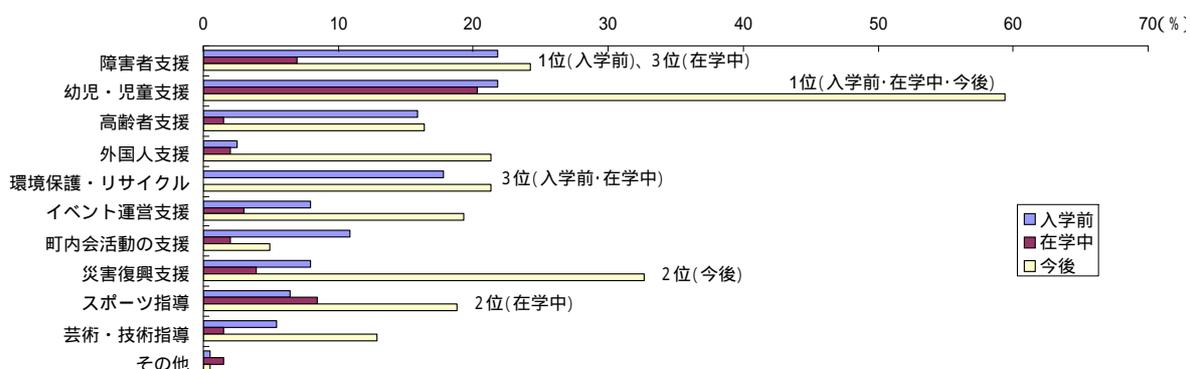


図42 ボランティアに関する入前・在学中の経験と今後の参加希望(学部生)(複数選択)

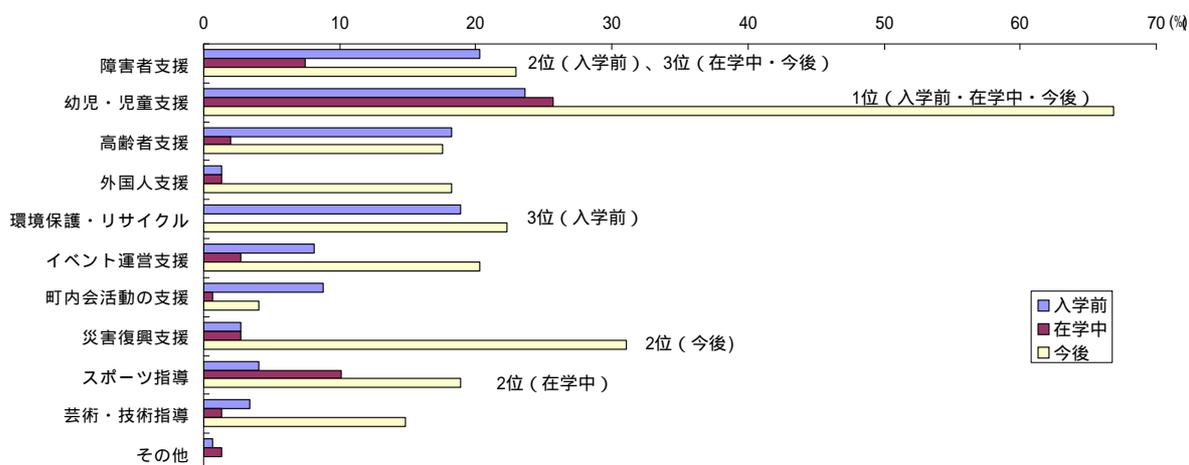
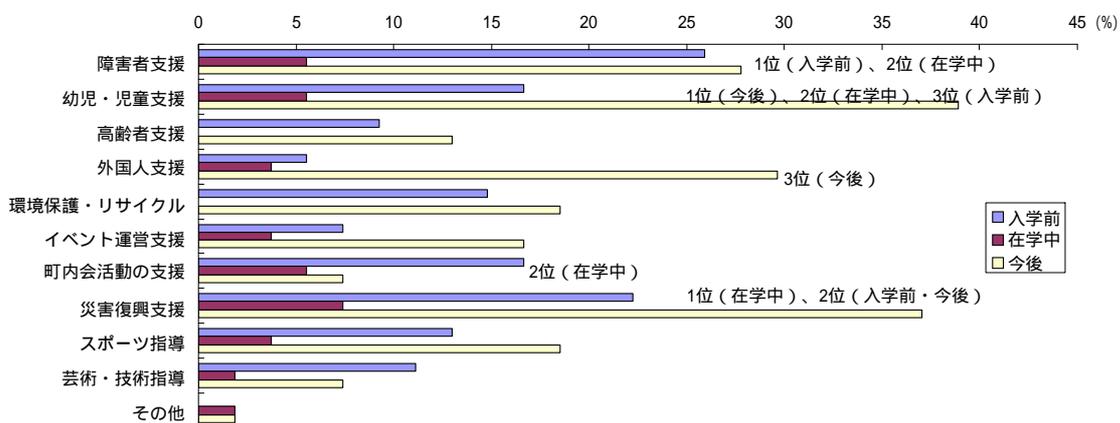


図43 ボランティアに関する入前・在学中の経験と今後の参加希望(院生)(複数選択)



2) 学部生と院生の比較

過去の活動状況(表 14)

- ・ 高齢者支援には、過去、院生と比べて学部生の方が多く取り組んでいた傾向がある。
- ・ 町内会活動支援には、過去、学部生と比べて院生が多く取り組んでいた傾向がある。
- ・ 災害復興支援には、過去、学部生と比べて院生の方が多く取り組んでいた。
- ・ スポーツ指導には、過去、学部生と比べて院生の方が多く取り組んでいた。
- ・ 芸術・技術指導には、過去、学部生と比べて院生の方が多く取り組んでいた。

現在の活動状況(表 15)

- ・ 幼児・児童支援には、現在、院生と比べて学部生の方が多く取り組んでいる。
- ・ 町内会活動支援には、現在、学部生と比べて院生の方が多く取り組んでいる。

今後の活動希望(表 16)

- ・ 幼児・児童支援に今後、参加したいという人は院生と比べて学部生に多い。
- ・ 外国人支援に今後、参加したいという人は学部生と比べて院生に多い傾向にある。

3) 所属とボランティアの関連(学部生)

現在

- ・ 学部生において、所属している専攻と現在の活動に有意な関係はない。

今後(表 17)

- ・ 「今後、幼児・児童支援に参加してみたい専攻」は、幼児・障害児専攻が他の専攻と比べて多く、教科教育専攻が他の教育専攻に比べて少ない。
- ・ 学校教育専攻では、他のボランティア活動に比べて「幼児・児童支援」に参加してみたい人が多い。
- ・ 幼児教育・障害児教育専攻では、他のボランティア活動に比べて「幼児・児童支援」に参加してみたい人が多い。
- ・ 教科教育専攻で、「幼児・児童支援」に参加してみたい人とそうでない人の差はない。
- ・ 教科教育専攻は、他の2専攻に比べて「環境保護・リサイクル」参加希望者が多い。

表 14 入学前のボランティア経験における学部生と院生の比較（複数選択）

（単位：人）

	高齢者支援	町内会活動支援	災害復興支援	スポーツ指導	芸術技術指導	総人数
学部生	27	13	4	6	5	148
院生	5	9	12	7	6	54

（注）：有意に多い($p<0.1$)（12 ページ参照）
有意な項目のみ表示

表 15 在学中のボランティア経験における学部生と院生の比較（複数選択）

（単位：人）

	幼児・児童支援	町内会活動支援	総人数
学部生	38	1	148
院生	3	3	54

（注）：有意に多い($p<0.01$)（12 ページ参照）
有意な項目のみ表示

表 16 ボランティアに関する今後の希望における学部生と院生の比較（複数選択）

（単位：人）

	幼児・児童支援	外国人支援	総人数
学部生	99	38	148
院生	21	16	54

（注）：有意に多い($p<0.1$)（12 ページ参照）
有意な項目の表示

表 17 今後参加したいボランティアにおける専攻間の比較（学部生）（複数選択）

（単位：人）

	幼児・児童支援	環境保護・リサイクル	総人数
学校教育専攻	36	7	86
幼児教育・障害児教育専攻	25	3	27
教科教育専攻	38	23	88

（注）：有意に多い（専攻間 $p<0.05$, 専攻内 $p<0.01$ ）（12 ページ参照）
有意な項目のみ表示

4) 現在と今後のボランティア参加への希望の変化(全体)(図44、表18)

- ・ 過去、現在、未来それぞれの総計を比べるとレ点型で推移している。
- ・ どのボランティア活動項目においても、「現在行っていないが、今後行いたい」と思う人は、「現在行っているが、今後は行いたくない」と思う人よりも有意に多い。
- ・ 幼児・児童支援と災害復興支援は他のボランティアに比べて現在は活動をしていないが今後は前向きに希望している人が多い。

図44 ボランティアに関する過去・現在の経験と今後の希望の比較(全体) (複数選択)

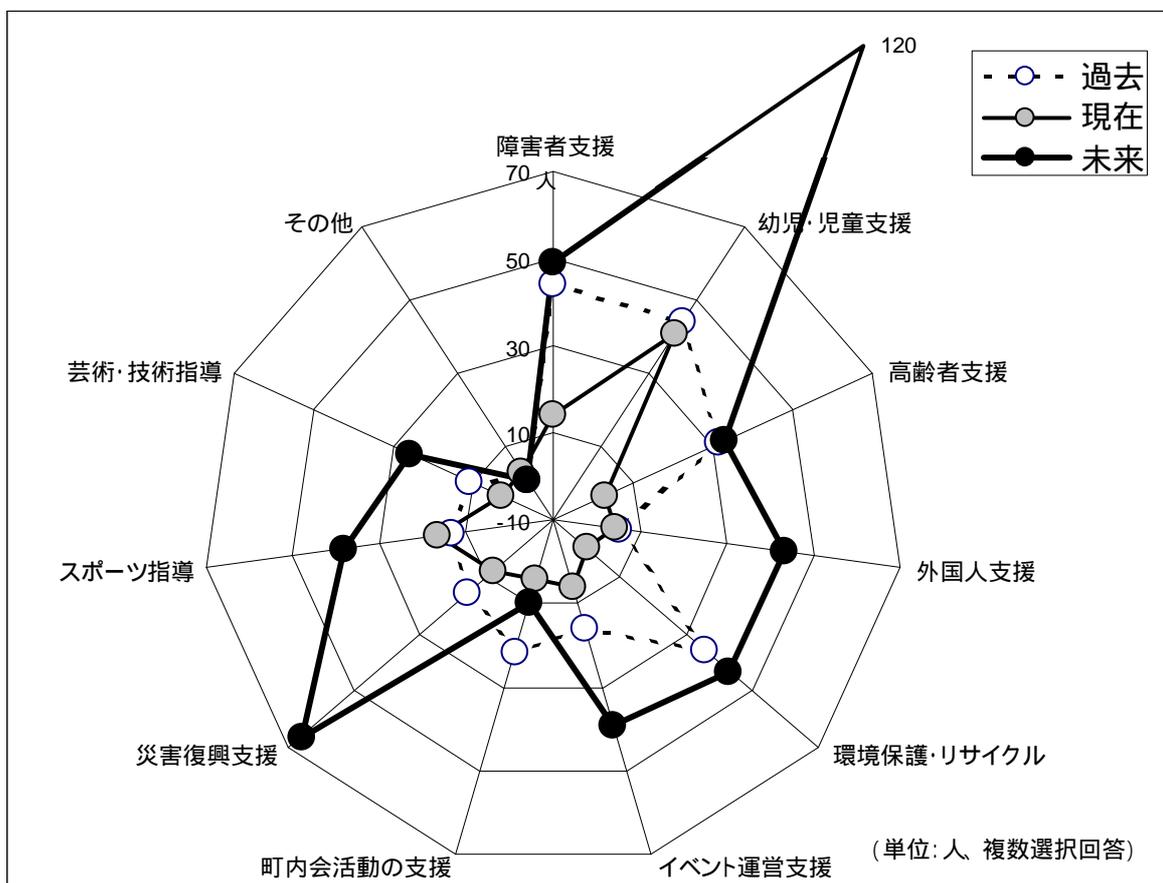


表 18 ボランティア参加に対する意識変化における現在と今後の希望（学部生）（複数選択）

（単位：人）

ボランティア	現在は行っていないが 今後行いたい	現在行っているが 今後はいたくない
障害者支援	29	6
幼児・児童支援	68	7
高齢者支援	26	2
外国人支援	27	2
環境保護・リサイクル	33	0
イベント運営支援	29	3
町内会活動の支援	6	1
災害復興支援	43	1
スポーツ支援	19	6
芸術・技術支援	21	1
総人数	148	148

（注）：有意に多い（ $P<0.01$ ）（「現在は行っていないが、今後は行いたい」と希望するボランティアの種類間で比較した場合に有意に多い）

（12 ページ参照）

5) ボランティア活動で重視すること

[質問: ボランティア活動に参加するとしたら、あなたが重視するものは何ですか(3つ選択)]

全体(図 45)

- ・ 第1位「誰のため・何のためになる活動か」(73.8%)、第2位「日常的な行動範囲で行けるか」(56.9%)、第3位「時間がかかるか、継続性が必要か」(34.7%)となっている。
- ・ 第1位と第2位は6割以上の人が重視すると答えているが、それ以外は3割以下である。

学部生(図 46)

- ・ 第1位「誰のため・何のためになる活動か」(72.3%)、第2位「日常的な行動範囲で行けるか」(58.8%)、第3位「時間がかかるか、継続性が必要か」、「知識・技術を必要とするか」(33.8%)となっている。
- ・ 第1位と第2位は6割以上の人が重視すると答えているがそれ以外については、3割以下である。

院生(図 47)

- ・ 第1位「誰のため・何のためになる活動か」(77.8%)、第2位「日常的な行動範囲で行けるか」(51.9%)、第3位「時間がかかるか・継続性が必要か」(37.0%)となっている。
- ・ 第1位と第2位は6割以上の人が重視すると答えているがそれ以外については、3割以下である。

学部生と院生の比較

- ・ 学部生と院生で差はなかった。

ボランティアで重視することと交通手段の関連(全体)(表 19)

- ・ 徒歩の人の方が、知識・技術の必要性を重視する。
- ・ 車の所有者の方が、知識・技術の必要性を重視しない。
- ・ 自転車利用車は、特に時間のかかることや継続性を重視はしない。
- ・ 学部生と院生間で違いは無かった。

図 45 ボランティア活動で重視すること(全体)(3つ選択)

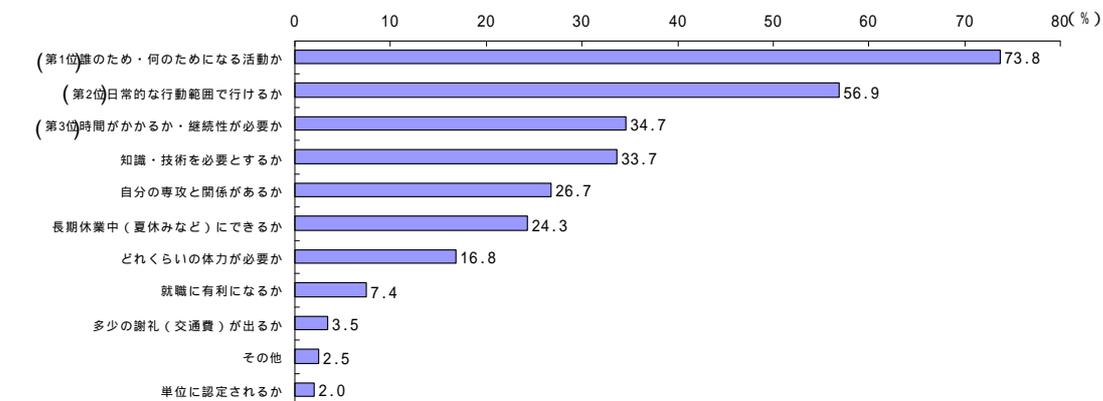


図 46 ボランティア活動で重視すること(学部生)(3つ選択)

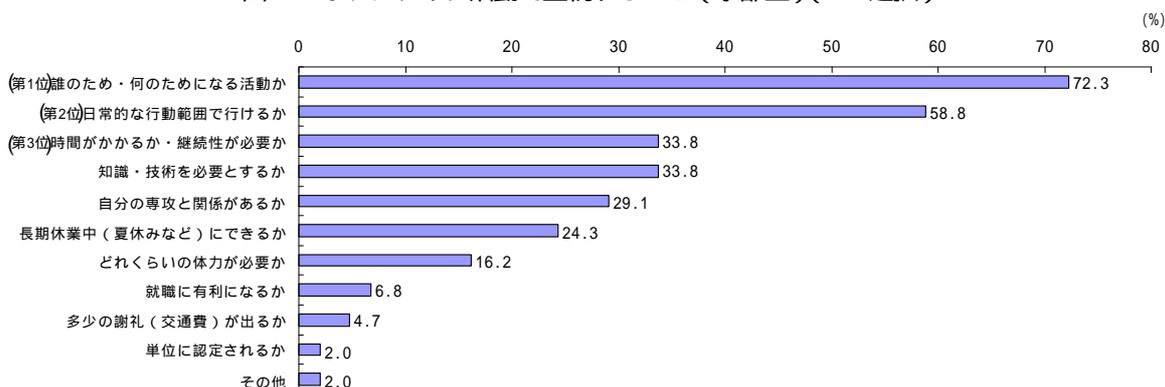


図 47 ボランティア活動で重視すること(院生)(3つ選択)

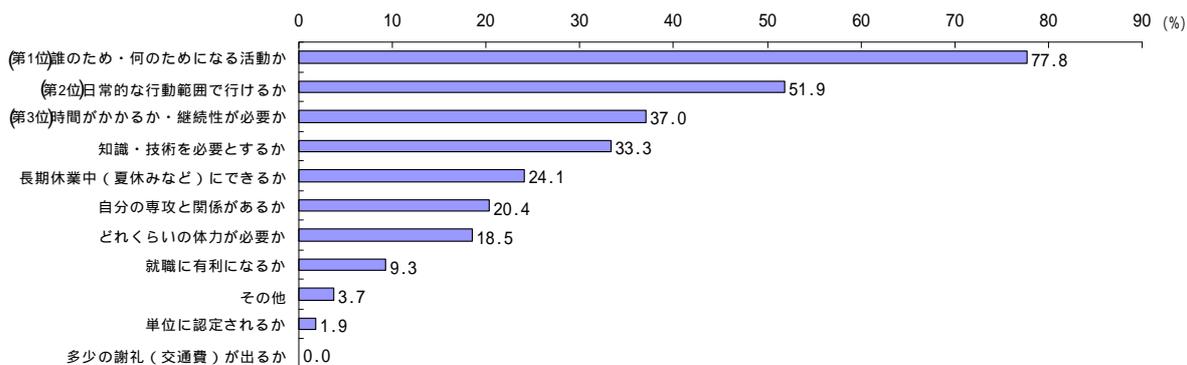


表 19 ボランティア活動で重視することと交通手段の関連(全体)(ボランティアの重視3つ選択、交通手段2つ選択)
(単位:人)

ボランティアで重視すること	回答	交通手段	
		徒歩	徒歩以外
知識・技術の必要性	重視しない	54	80
	重視する	38	30
		自動車	自動車以外
	重視しない	92	42
	重視する	38	30
時間がかかるか・継続性が必要か		自転車	自転車以外
	重視しない	55	77
	重視する	21	49

(注) : 有意に多い(p<0.1) (12ページ参照) 有意な項目のみ表示

6) ボランティア活動の情報源

[質問: ボランティアの情報はどのようにして手に入れましたか(複数選択)]

全体(図 48)

- ・ 第1位「大学事務局の掲示」(32.2%)、第2位「部活・サークルの掲示や口コミ」28.2%、第3位「教員・ゼミなどの掲示や口コミ」(19.3%)となっている。
- ・ 回答数で分けると、第1グループ「大学事務局の掲示、部活・サークルの掲示や口コミ」、第2グループ「教員・ゼミなどの掲示や口コミ」となっている。

学部生(図 49)

- ・ 第1位「大学事務局の掲示」(38.5%)、第2位「部活・サークルの掲示や口コミ」(33.8%)、第3位「教員・ゼミなどの掲示や口コミ」(18.2%)となっている。
- ・ 大学事務局の掲示と部活・サークルの掲示や口コミは3割あるが、それ以外は2割以下となっている。

院生(図 50)

- ・ 第1位「教員・ゼミなどの掲示や口コミ」(22.2%)、第2位「市の広報誌」(18.5%)、第3位「大学事務局の掲示」(14.8%)となっている。

学部生と院生の比較(表 20)

- ・ 市の広報誌を情報源とする人は、学部生と比べて院生の方が多い。
- ・ 大学事務局の掲示を情報源とする人は、院生と比べて学部生の方が多い。
- ・ 部活・サークルの掲示や口コミを情報源とする人は、院生と比べて学部生の方が多い。

7) まとめ

- ・ 現在ボランティア活動をしている人は少ないが、幼児・児童支援や災害復興支援をはじめ様々なボランティアに対して高い関心をもっている。
- ・ ボランティア活動では「誰のため、何のためになるのか」という問題意識を持ちながら活動する人が多く、日常的な行動範囲で活動でき時間や継続性が必要かどうかも活動を行う上での物理的な問題も重視している。
- ・ 公的もしくは身近で信頼できる大学事務局の掲示や口コミが情報源となっている。

8) 考察

- ・ スポーツ指導や芸術・技術指導などある程度の知識や技術を必要とするボランティア経験が院生に多いことは、それらのボランティアの基礎となる部分を大学生活の中でもしくは教員として経験してきた中で学んできたことが違いとして現れていると推測される。

- ・ 徒歩の人のほうが知識・技術の必要性を重視するのは、徒歩であっても自分の知識・技術が求められていれば行こうという強いボランティア精神の表れと推測される。もしこれが体を動かすことが好きで知識・技術を必要とするならばいきたくないという意見だったとすると、スポーツが好きという傾向を示した院生と学部生で差が生じたはずだが、違いは表れなかった。
- ・ 学部生と比べて院生の方が、もともと市の広報誌をよく読むためボランティアの情報源の違いに現れたと推測される。
- ・ 講義数の違いやサークルへの所属など生活実態の違いが、学部生と院生の情報源の違いにも現れていると考えられる。
- ・ 口コミには公的な情報源である大学掲示と同じくらい威力があることが分かった。口コミは、情報の伝達と勧誘の両面の効果をもつためこのネットワークを有効活用することが手段の一つとして期待される。

図 48 ボランティアに関する情報源（全体）（複数選択）

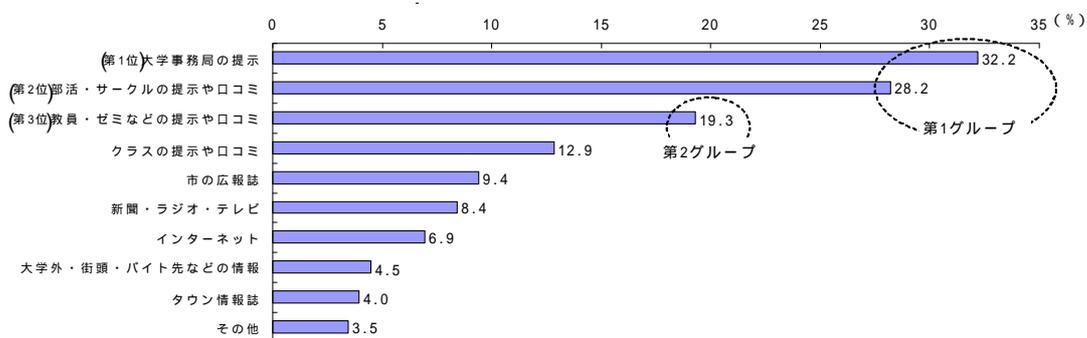


図 49 ボランティアに関する情報源（学部生）（複数選択）

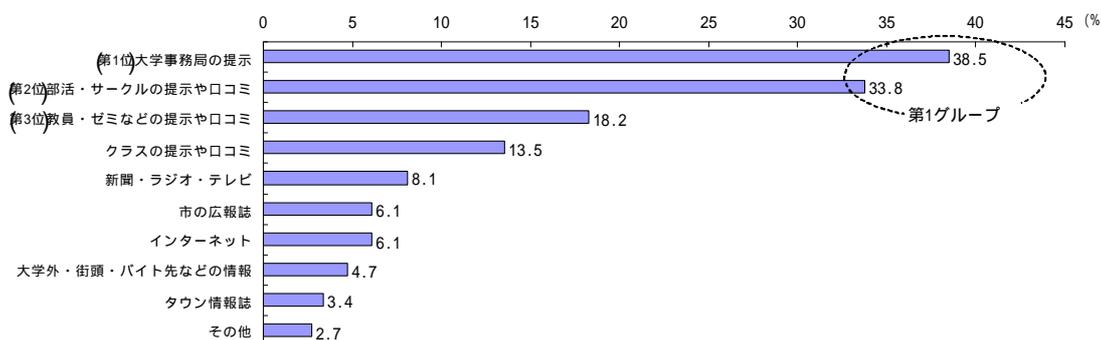


図 50 ボランティアに関する情報源（院生）（複数選択）

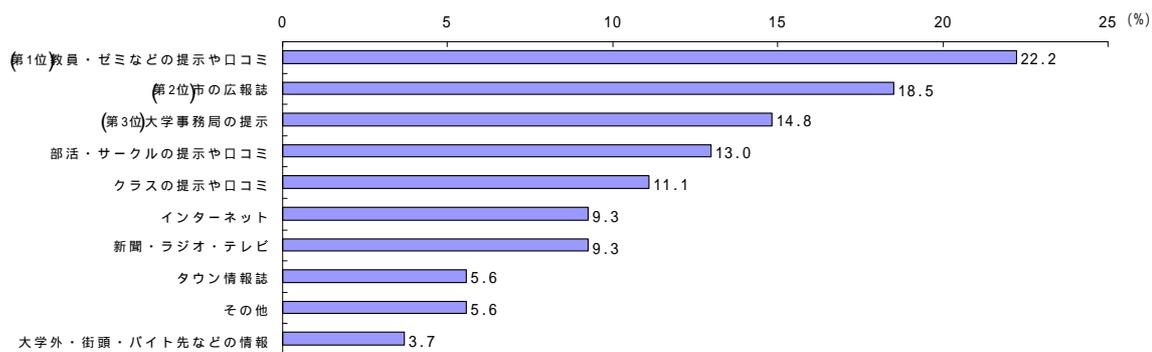


表 20 ボランティアに関する情報源における学部生と院生の比較（複数選択）

（単位：人）

	市の広報誌	大学事務局の掲示	部活・サークルの掲示 や口コミ	総人数
学部生	38	57	50	148
院生	16	8	7	54

（注）：有意に多い ($p < 0.05$) (12 ページ参照) 有意な項目のみ表示

(7) 気になること

1) 日常生活で気にかかっていること

[質問: 日常生活で気にかかっていることは何ですか(複数選択)]

全体(図51、図52)

- ・ 気にかかっていることは、第1グループ「授業やレポートなど勉学のこと(65.8%)、就職・進路のこと(65.3%)、生活やお金のこと(60.9%)」、第2グループ「自分の性格や能力のこと(46.0%)、時間が足りないこと(43.6%)」、第3グループ「心身の健康のこと(34.2%)、アルバイトのこと(32.7%)」となっている。
- ・ 友人以外の対人関係のことを気にする人は、時間が足りないことを気にする。
- ・ サークル部活動を気にする人は、自分の性格や能力のこと、友人関係のこと、アルバイトのことを気にする。

(注)気にかかっていることの間連性については、間連性の強さを示す係数が0.25以上0.4未満のもの(1に近づくほど関連が強い)

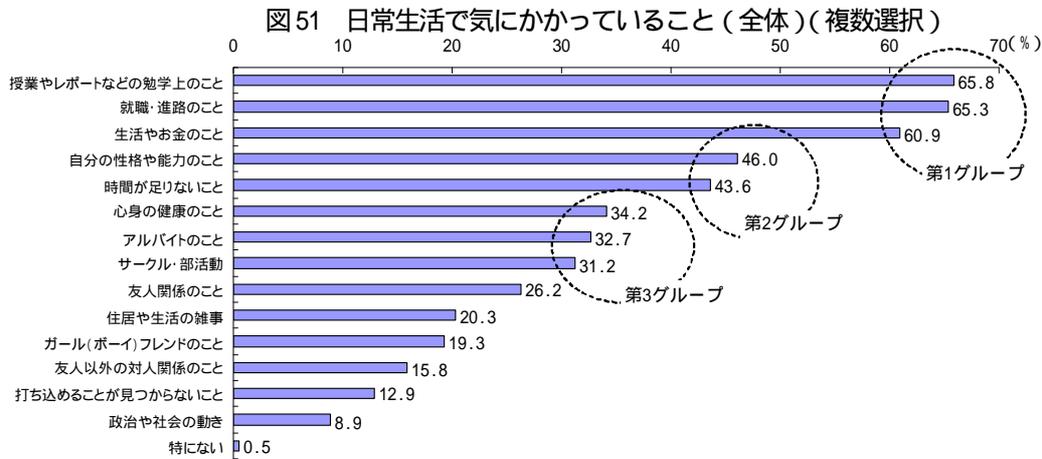
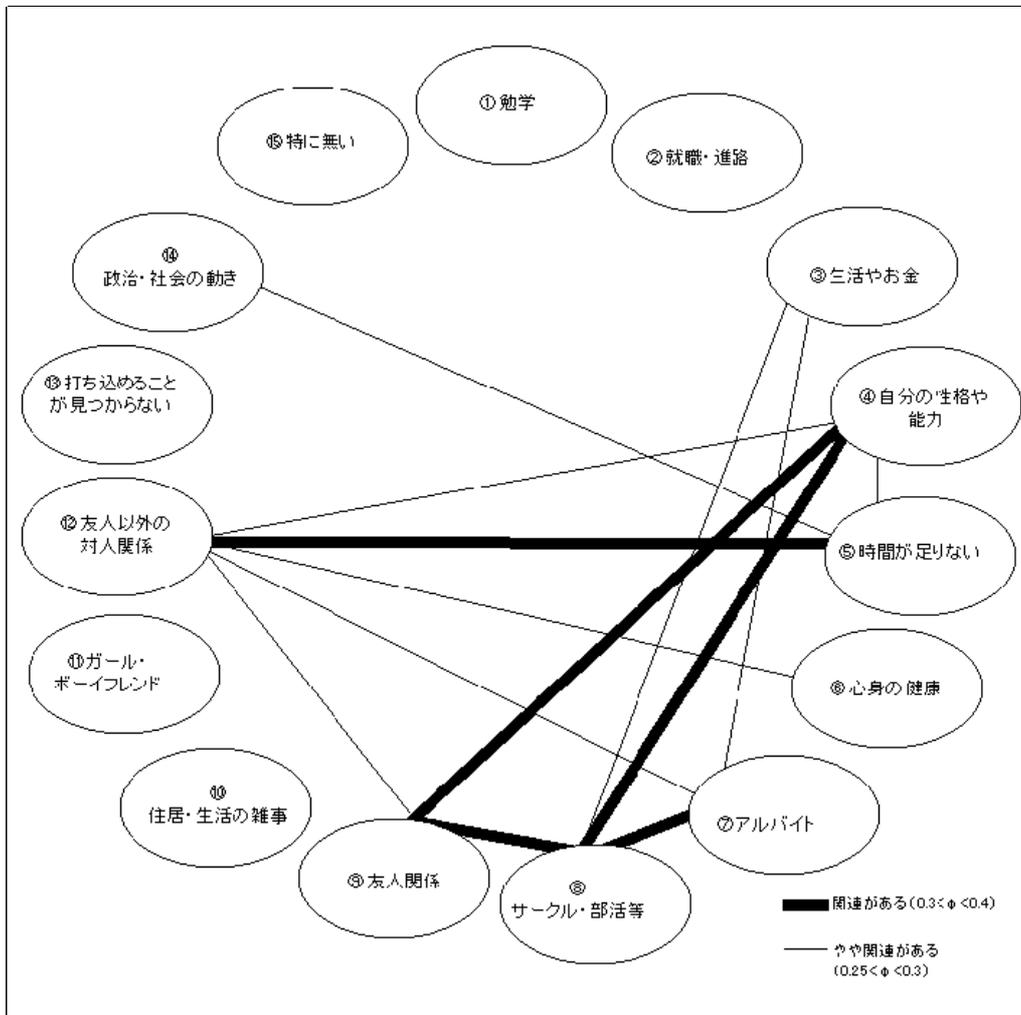


図52 日常生活で気にかかっていることの関係図(全体) 複数選択回答



(注) : 関連の強さを示す係数(1に近いほど関連が強い) $p < 0.01$ (12ページ参照)

学部生(図 53)

- ・ 第1位「就職・進路のこと」(77.0%)、第2位「生活やお金のこと」(64.9%)、第3位「授業やレポートなど、勉学上のこと」(62.8%)となっている。
- ・ 回答数で分けると、第1グループ「就職・進路のこと」、第2グループ「生活やお金のこと、授業やレポートなど勉学上のこと」、第3グループ「自分の性格や能力のこと、時間が足りないこと、アルバイトのこと」となっている。

院生(図 54)

- ・ 第1位「授業やレポートなど、勉学上のこと」(74.1%)、第2位「生活やお金のこと」(50.0%)、第3位「心身の健康のこと」(40.7%)となっている。
- ・ 回答数で分けると、第1グループ「勉強やレポートなど勉学上のこと」、第2グループ「生活やお金のこと」、第3グループ「自分の性格や能力のこと、時間が足りないこと、就職・進路のこと」となっている。

学部生と院生の比較(表 21)

- ・ 勉学上のこと気がなるものは、学部生と比べて院生の方が多い。
- ・ 生活・お金のことが気にかかるものは、院生と比べて学部生の方が多い。
- ・ 就職・進路のことが気にかかるものは、院生と比べて学部生の方が多い。
- ・ アルバイトのことが気にかかるものは、院生と比べて学部生の方が多い。
- ・ サークル・部活動のことが気にかかるものは、院生と比べて学部生の方が多い。
- ・ 打ち込めることが見つからないことを気にかけるものは、院生と比べて学部生に多い。
- ・ 友人関係を気にかけているものは、院生と比べて学部生に多い。
- ・ 友人以外の対人関係を気にかけているものは、院生と比べて学部生に多い。
- ・ ガール・ボーイフレンドのことが気にかかっているものは、院生と比べて学部生に多い。

図 53 日常生活で気にかかっていること（学部生）（複数選択）

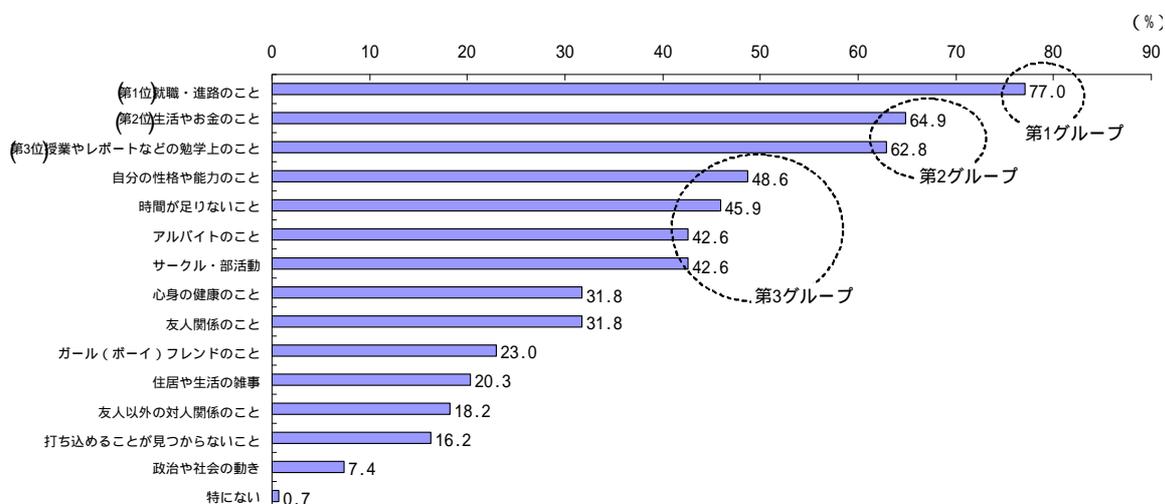


図 54 日常生活で気にかかっていること（院生）（複数選択）

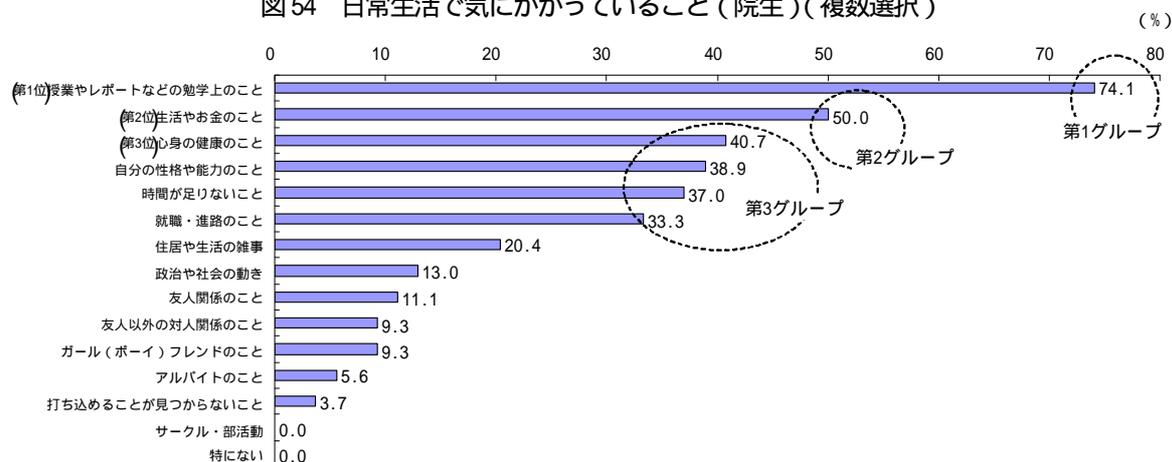


図 20 日常生活で気にかかっていることの学部生と院生の比較（複数選択）

（単位：人）

日常生活で気にかかっていること	学部生	院生
勉学上のこと	93	40
生活・お金のこと	96	27
就職・進路のこと	114	18
アルバイトのこと	63	3
サークル・部活動	63	0
打ち込めることが見つからないこと	24	2
友人関係	47	6
友人以外の対人関係	27	5
ガール・ボーイフレンドのこと	49	5
総人数	148	54

（注）：有意に多い(p<0.1)（12ページ参照）

気になることと今後のイベント参加希望の関連(全体)(表 22)

- ・ フリーマーケットに参加したい人は、時間が無くて身の回りの雑事に追われている人が多い。
- ・ 伝統行事に参加したい人は、身近な人間関係や自分自身の内面的なことを気にしている。

上教大の学部生と全国の学部生の比較(表 23)

以下、全国の学部生と比較した場合の上教大の学部生は次のようなことを気にする。

- ・ 就職や進路のこと
- ・ 生活やお金のこと
- ・ 授業やレポートなど、勉学のこと
- ・ 自分の生活や能力
- ・ 時間が足りないこと
- ・ アルバイトのこと
- ・ サークル・部活動のこと
- ・ 心身の健康のこと
- ・ 友人関係のこと
- ・ 住居や生活の雑事

また、何かに関心があるという傾向がある。

表22 気になることとイベント参加希望の関連

	音楽 イベント	教育・文化 イベント	フリー マーケット	伝統行事	スポーツ イベント	芸術 イベント	農業 イベント	産業 フェア	環境 イベント
勉学上のこと									
生活やお金の こと									
就職・進路こと									
住居・生活の雑 事									
時間が足りない こと									
アルバイトの こと									
政治や社会の 動き									
サークル・部活 動のこと									
自分の能力・性 格のこと									
友人関係									
友人以外の対 人関係									
心身の健康									

(注) * :有意である (p<0.05) (気にしている)、△ :有意な傾向がある (p<0.1) (まあまあ気にしている)

表23 日常生活で気になることにおける上教大学部生と全国の学部生の比較 (複数選択) (単位:人)

日常生活で気になっていること (複数回答)	上越教育大学 (学部生)	全国 (学部生)
就職・進路のこと	114	6776
生活やお金のこと	96	7942
授業やレポートなど勉学上のこと	93	7740
自分の性格や能力のこと	72	5207
時間が足りないこと	68	5409
アルバイトのこと	63	3620
サークル・部活動	63	2627
心身の健康のこと	47	2129
友人関係のこと	47	1539
ガール(ボーイ)フレンドのこと	34	3932
住居や生活の雑事	30	1135
友人以外の対人関係のこと	27	NA
打ち込めることが見つからないこと	24	3000
政治や社会の動き	11	1228
特に無い	1	466
総人数	202	15542

(注) * :有意に多い(p<0.1) (12ページ参照) NA:データ無し

(出所) 全国:全国大学生生活協同組合連合会 『Campus Life Data 2003-2004』

上越教育大学:上越市創造行政研究所

2) 学生生活で重点を置いていること

[質問: 大学生生活で、もっとも重点をおいているものは何ですか(1つ選択)]

全体(図 55)

- ・ 第1位「勉強第一」(25.1%) 第2位「豊かな人間関係」(23.1%) 第3位「何事もほどほどに」(20.1%) となっている。

学部生(図 55)

- ・ 第1位「豊かな人間関係」(24.5%) 第2位「何事もほどほどに」(23.1%) 第3位「勉強第一」(17.0%) となっている。

院生(図 55)

- ・ 第1位「勉強第一」(48.1%) 第2位「豊かな人間関係」(19.2%) 第3位「何事もほどほどに」(11.5%) となっている。

学部生と院生の比較(表 24)

- ・ 学部生は院生と比べて何事もほどほどに行う傾向がある。
- ・ 院生は学部生と比べて勉強第一と考える。
- ・ 学部生、院生ともに上位3つが特に多く、階段状の傾向を示す。

上教大の学部生と全国の学部生の比較(表 25)

全国の大学生と比較した場合、上教大の学部生は学生生活の重点において次のような違いがある。

- ・ 豊かな人間関係を重視する傾向がある
- ・ 何事もほどほどに生活する人が多い
- ・ 勉強第一とする人が少ない
- ・ なんとなく生活する人が多い
- ・ 趣味第一とする人が少ない
- ・ 資格取得第一とする人が少ない

3) まとめ

- ・ 最も関心があることは、学部生は将来のこと、院生は勉強のこと。
- ・ 学部生と院生では大学生生活の目的が違う。学部生は、豊かな人間関係を大切にしたり何事にもほどほどにとりくんだりとおだやかな学生生活を送っている。一方院生は、勉強第一と考えるひとが約半数を占めている。
- ・ 全国の学生と比べ様々なことに関心を持ち何事にもまじめに取り組んでいる。

4) 考察

- ・ 上教大生は、様々なことに関心があるものの、ある程度関心のグループ分けができる。
- ・ 上教大生は、全国と比較して何かに関心を持ち、何事にもまじめに取り組む学生と考えられる。

図 55 学生生活の重点第 1 位から第 3 位 (全体 N=199、学部生 N=147、院生 N=52) (1 つ選択)

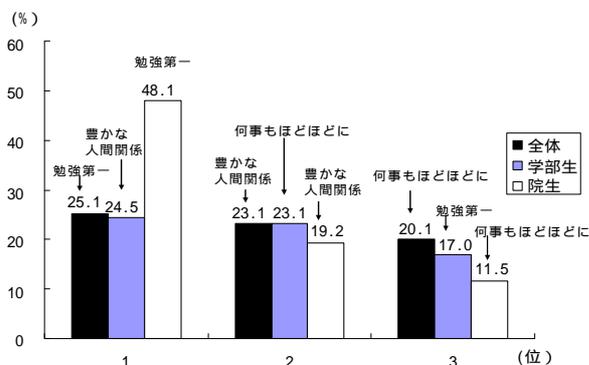


表 24 学生生活の重点における学部生と院生の比較 (学部生 N=147、院生 N=52) (1 つ選択)
(単位:人)

学生生活の重点	学部生	院生
勉強第一	3 位 25	1 位 25
部活・クラブ第一	15	1
趣味第一	9	3
豊かな人間関係	1 位 36	2 位 10
資格取得第一	3	2
バイト・貯金	2	0
ボランティア	0	0
何事もほどほどに	2 位 34	3 位 6
重点は置かずなんとなく生活	15	3
その他	8	2
総人数	147	52

(注) : 有意に多い (p<0.1) (12 ページ参照)

表 25 学生生活の重点における上教大学学部生と全国の学部生の比較 (1 つ選択)
(単位:人)

大学生活での重点 (1 つ選択)	上越教育大学 (学部生)	全国 (学部生)
豊かな人間関係	36	2953
何事もほどほどに	34	2440
勉強第一	25	4181
部活・クラブ第一	15	1927
重点はおかずになんとなく生活	15	762
趣味第一	9	1663
その他	8	218
資格取得第一	3	793
バイト・貯金	2	389
ボランティア	0	NA
総人数	147	15542

(注) : 有意に多い (p<0.1) (12 ページ参照)

(出所) 全国: 全国大学生生活協同組合連合会 『Campus Life Data 2003-2004』
上越教育大学: 上越市創造行政研究所

(8)卒業後に対する意識

1)Uターン希望

[質問:出身地(なるべく出身地に近いところ)に就職したいですか(1つ選択)]

全体(図 56)

- ・ Uターンを希望する人は、全体の77.1%を占める。

学部生(図 57)

- ・ 第1位「ハイ」(58.8%)、第2位「どちらかというハイ」(23.6%)、第3位「どちらともいえない」(15.5%)となっている。
- ・ 第1位・第2位を足すと、82.4%がUターンを希望している。

院生(図 58)

- ・ 第1位「ハイ」(35.8%)、第2位「どちらかというハイ」(26.4%)、第3位「どちらともいえない」(24.5%)となっている。
- ・ 第1位・第2位を足すと、62.2%がUターンを希望している。

2)出身地とUターン希望の関係(全体)

- ・ どの出身地の人もUターン希望が強い。

3)まとめ

- ・ 卒業後は、Uターンを希望する人が大半である。

4)考察

- ・ Uターンを希望しない人やまだ決めていない人約3割に対して上越市の魅力をアピールすることで、卒業後上越市に残ってもらうことも期待できる。

図 56 卒業後のUターン希望 (全体 N=201)

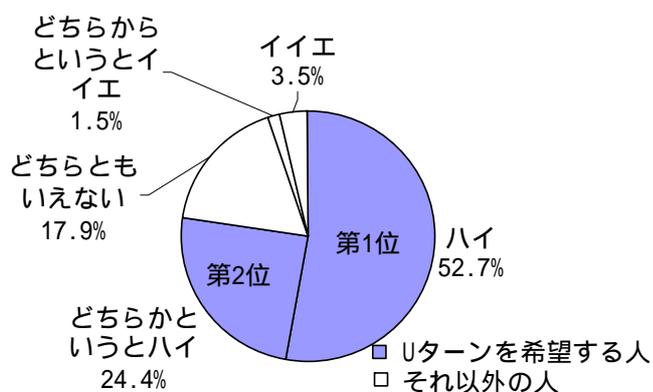


図 57 卒業後のUターン希望 (学部生 N=148)

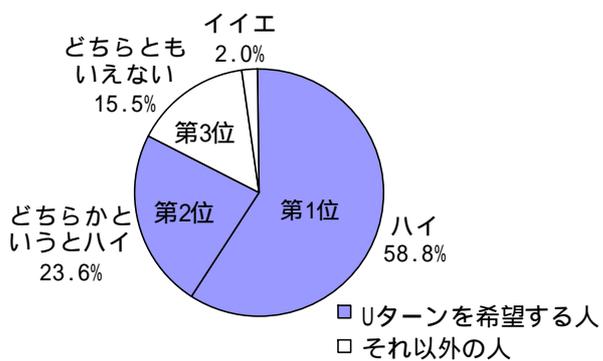
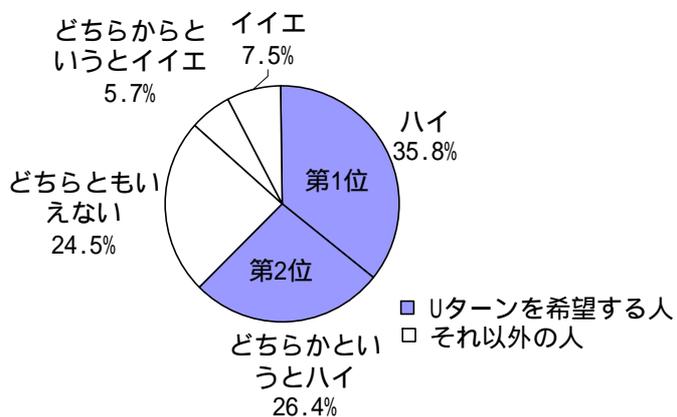


図 58 卒業後のUターン希望 (院生 N=53)



(9) 上越市に対する意識

1) 上越市の認知度(進学前)

[質問: 本学への進学を志す前に、上越市を知っていましたか(1つ選択)]

全体(図 59)

- ・ 一定の情報を持っていた人は、19.9%であった。
- ・ 第1位「全然知らなかった」(32.8%)、第2位「名前だけは知っていた」(23.9%)、第3位「名前も位置も知っていたい」(23.4%)となっている。

学部生(図 59)

- ・ 「一定の情報を持っていた」と答えた人は最も少なく、14.3%であった。
- ・ 第1位「全然知らなかった」(40.1%)、第2位「名前だけは知っていた」(23.8%)、第3位「名前も位置も知っていた」(21.8%)、第4位「一定情報を持っていた」(14.3%)となっている。

院生(図 59)

- ・ 第1位「一定の情報を持っていた」(35.2%)、第2位「名前も位置も知っていた」(27.8%)、第3位「名前だけは知っていた」(24.1%)、第4位「全然知らなかった」(13.0%)となっている。

学部生と院生の比較(表 26)

- ・ 上越市を知らなかったものは、学部生に多い。

図 59 上教大への進学を志す前の上越市の認知度（全体 N=201、学部生 N=145、院生 N=54）

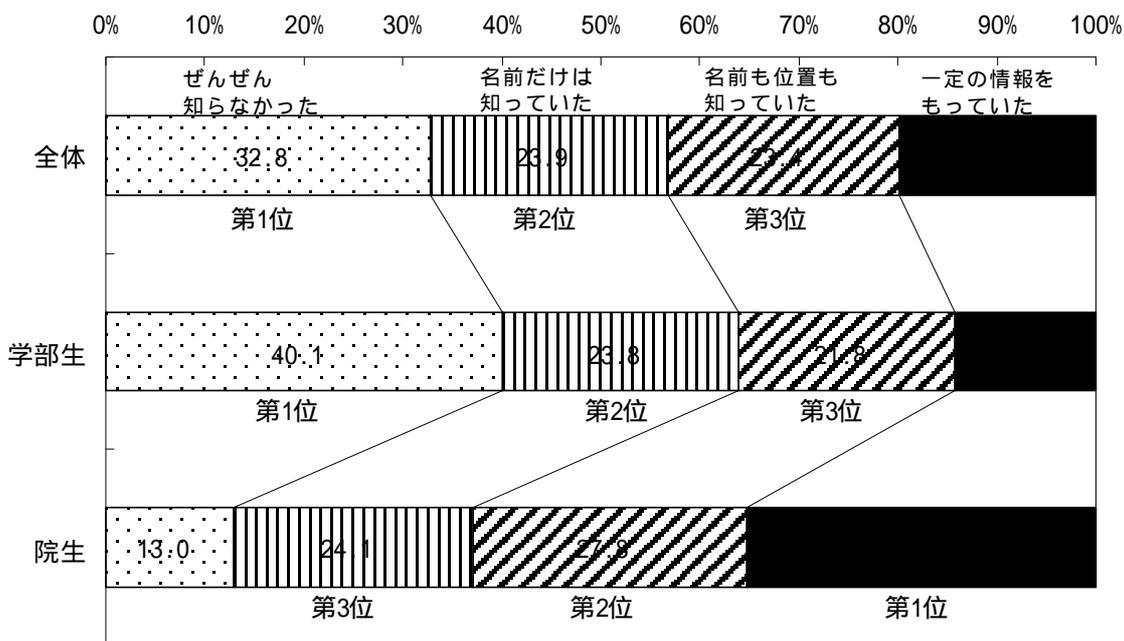


表 26 上教大への進学を志す前の上越市の認知度における学部生と院生の比較（全体 N=201）

(単位：人)

上越市の認知度	学部生		院生	
ぜんぜん知らなかった	59	126	7	35
名前だけは知っていた	35		13	
名前も位置も知っていた	32		15	
一定の情報をもっていた		21		19
総人数		147		54

(注) : 有意に多い (p<0.01) (12 ページ参照)

2) 上越市を知ったきっかけ(図 60)

[質問: 上越市を始めて知ったきっかけは何ですか(1 つ選択)]

全体

- ・ 第1位「大学のパンフレットや説明会など」(31.7%)、第2位「その他」(22.6%)、第3位「口コミ(学校の先生から)」(12.6%)となっている。

学部生

- ・ 第1位「大学のパンフレットや説明会など」(37.2%)、第2位「その他」(20.0%)、第3位「テレビ」(12.4%)となっている。
- ・ 「その他」とは、一般常識としてすでに知っていたなど。

院生

- ・ 第1位「その他」(29.6%)、第2位「口コミ(先輩・友人・親などから)」(18.5%)、第3位「口コミ(学校の先生から)」(16.7%)となっている。

学部生と院生の比較(表 27)

- ・ 上越市を知ったきっかけは、院生と比べて学部生は大学説明会やパンフレットが多い。

図 60 上越市を知ったきっかけ第 1 位から第 3 位 (全体 N=199、学部生 N=145、院生 N=54) (1 つ選択)

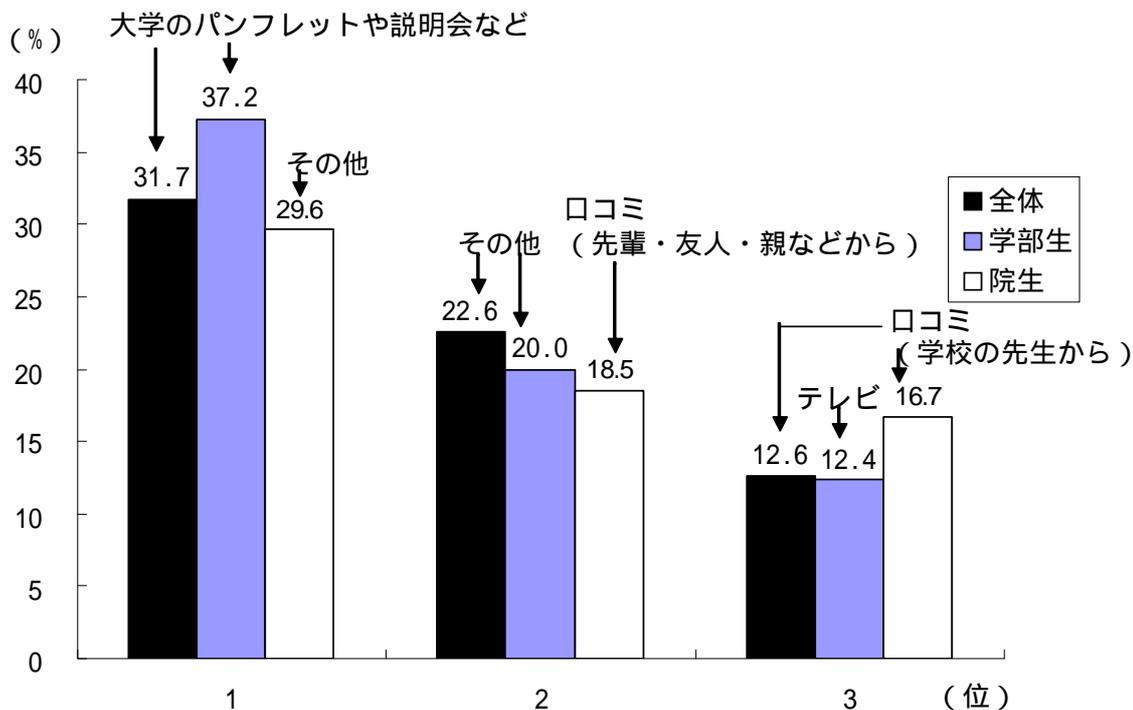


表 27 上越市を知ったきっかけにおける学部生と院生の比較 (学部生 N=145、院生 N=54)

(単位: 人)

上越市を知ったきっかけ	学部生	院生
口コミ (学校の先生から)	16	9
口コミ (先輩・友人・親などから)	14	10
大学のパンフレットや説明会など	54	9
その他	61	26
総人数	145	54

(注) : 有意に多い(p<0.05) (12 ページ参照)
有意な項目のみ表示

3)上越市で暮らしやすさを感じること

[質問:上越市で生活して、暮らしやすさを感じるのはどんなことですか(複数選択)]

全体(図 61)

- ・ 第1位「自然(緑)が豊かである」(70.8%)、第2位「海や山の幸に恵まれ、食が豊か」(33.7%)、第3位「歴史や伝統がある」(25.7%)となっている。
- ・ 回答人数で分けると第1グループ「自然(緑)が豊かである」は7割、第2グループ「海や山の幸に恵まれ、食が豊かや歴史や伝統がある」は約3割である。

学部生(図 62)

- ・ 第1位「自然(緑)が豊かである」(68.2%)、第2位「海や山の幸に恵まれ、食が豊か」(31.8%)、第3位「歴史や伝統がある」(23.6%)となっている。
- ・ 回答人数で分けると第1グループ「自然(緑)が豊かである」が7割と群を抜いて多いがそれ以外は3割以下である。

院生(図 63)

- ・ 第1位「自然(緑)が豊かである」(77.8%)、第2位「海や山の幸に恵まれ、食が豊か」(38.9%)、第3位「歴史や伝統がある」(31.5%)となっている。
- ・ 回答数で分けると第1グループ「自然(緑)が豊かである」が7割と群を抜いて多いが第2グループ「海や山の幸に恵まれ、食が豊かや歴史や伝統がある」は4割以下である。

図61 上越市で暮らしやすさを感じること(全体)(複数選択)

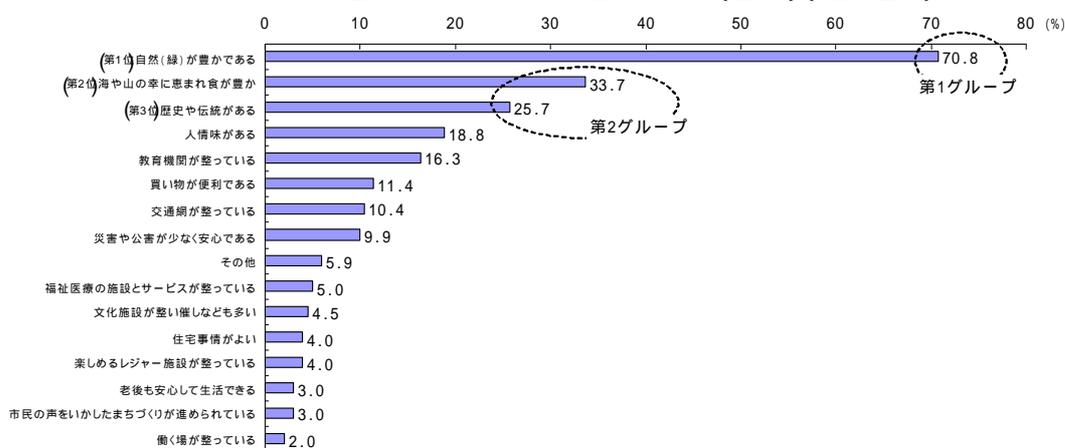


図62 上越市で暮らしやすさを感じること(学部生)(複数選択)

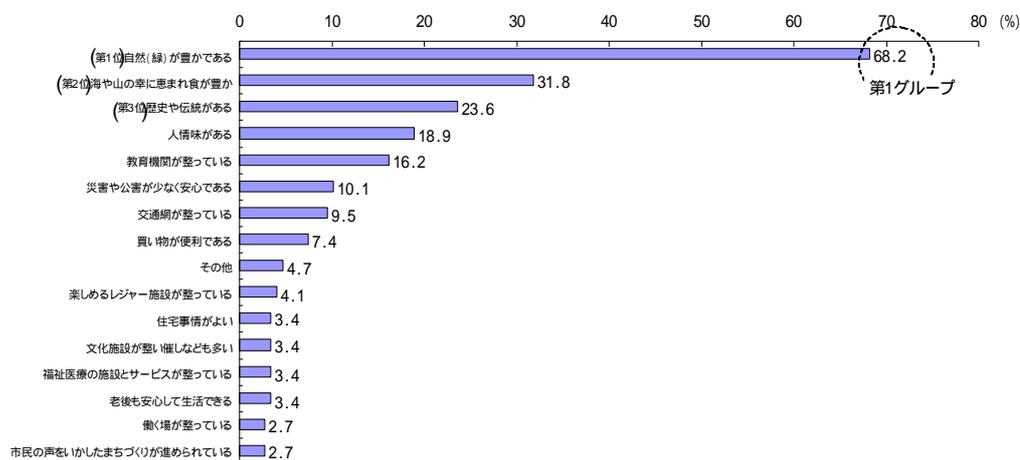
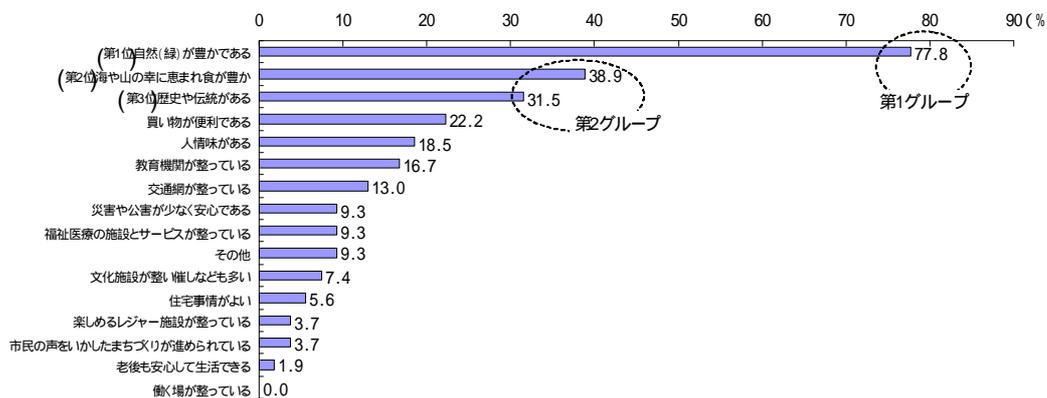


図63 上越市で暮らしやすさを感じること(院生)(複数選択)



学部生と院生の比較(表 28)

- ・ 買い物が便利と感じる人は、学部生と比べて院生に多い。
- ・ 福祉・医療の施設とサービスを挙げた人は、学部生と比べて院生に多かった。
- ・ (買い物が便利と考えている人において) 暮らしやすさと交通手段を関連させてみたが、有意な関係はなかった。

暮らしやすさと交通手段の関係(全体)(表 29)

- ・ 自然が豊かを挙げた人は、車の非所有者が多い。
- ・ 主な交通手段が徒歩の人は、上越市に感じる暮らしやすさは、自然が豊かのみ。
- ・ 交通網の整備を挙げた人は、車の所有者に多い。
- ・ 住宅事情が良いと答えた人は、車の所有者が多い。
- ・ 食が豊かを答えた人は、車の所有者が多い。
- ・ 老後の暮らしやすさを挙げた人は、車の所有者に多い。
- ・ 市民の声を活かしていると答えた人は、車の所有者に多い。

暮らしやすさ(学部生)と出身地(学部生)の関連

- ・ 出身地によって暮らしやすいと感じることに違いは表れなかった。

表28 上越市で暮らしやすさを感じることにける学部生と院生の比較（複数選択）

（単位：人）

暮らしやすいと感じること	学部生	院生
買い物が便利	11	12
福祉医療の施設とサービス	5	5
総人数	148	54

（注）：有意に多い(p<0.1)（12ページ参照）
有意な項目のみ表示

表29 上越市で暮らしやすさを感じることと交通手段の関係（全体）（複数選択）

（単位：人）

	自動車移動	その他の手段で移動
自然が豊か	87	56
交通網が整っている	17	4
住宅事情がよい	8	0
食が豊か	51	17
老後の暮らしやすさ	6	0
市民の声を活かしたまちづくり	6	0
総人数	130	72

（注）：有意に多い(p<0.1)（12ページ参照） 有意な項目のみ表示

	徒歩移動	その他の手段で移動
自然が豊か	77	66
総人数	92	110

（注）：有意に多い(p<0.01)（12ページ参照） 有意な項目のみ表示

学部生と上越市民の比較(表 30)

以下、旧上越市在住の 20 歳以上の市民を対象として実施した上越市『住民満足度調査報告書』(平成 14 年)の上越市民と比較した上教大学部生の傾向。

- ・ 自然が豊かと感じる傾向が高い。
- ・ 食が豊富と感じない。
- ・ 人情味を感じていない。
- ・ 教育機関が整っていると感じている。
- ・ 災害や公害が少なくて安心とは感じていない。
- ・ 交通網が整っていると感じていない。
- ・ 買い物が便利と感じていない。
- ・ 住宅事情が整っていると感じていない。
- ・ 文化施設が整い、催し物が多いとは感じない傾向がある。
- ・ 医療福祉の施設とサービスが整っていると感じてはいない。
- ・ 老後も安心して生活できると感じていない傾向が高い。
- ・ 市民の声を活かしたまちづくりが進められていると感じていない。

表 30 上越市で暮らしやすさを感じることに上教大生（全体）と上越市民の比較（複数選択）

（単位：人）

上越市で暮らしやすさを感じること（複数回答）	上越教育大学 （学部生）	上越市民
自然(緑)が豊かである	101	559
海や山の幸に恵まれ食が豊か	47	554
歴史や伝統がある	35	253
人情味がある	28	259
教育機関が整っている	24	80
災害や公害が少なく安心である	15	444
交通網が整っている	14	234
買い物が便利である	11	287
その他	7	22
楽しめるレジャー施設が整っている	6	47
住宅事情が良い	5	358
文化施設が整い催しなども多い	5	58
福祉医療の施設とサービスが整っている	5	147
老後も安心して生活できる	5	74
働く場が整っている	4	20
市民の声をいかしたまちづくりが進められている	4	62
総人数	148	899

（注）：有意に多い(p<0.1)（12ページ参照）

（出所）上越市民：上越市『住民満足度調査報告書』（平成14年）

上教大生：上越市創造行政研究所

4)まとめ

- ・ 多数の学生が進学をきっかけに初めて上越市を知り、住んでみた後は「自然と食が豊かで歴史や伝統がある」と評価している。

5)考察

- ・ 学部生は、大学から流す情報が上越市を知るきっかけとして多いことがわかった。大学案内に上越市のインフォメーションを混ぜるなど連携したPRができれば効果的と考えられる。
- ・ 4年程度と比較的短い期間、限られたエリア、学生グループの中で過ごすことが多いことなどから、上越市に対するイメージは市民と比べて偏りがある。例えば、福祉医療の施設のサービスや老後の生活に関することなど若者が関係する機会が少ない分野については印象を判断することが困難なため、上越市民よりも評価が低いものと考えられる。
- ・ 上教大生が感じる上越市のイメージは、上越教育大学所在地及びその周辺が生活の拠点になっていることを反映していると推測される。
- ・ 行動範囲が限られているため上越市の中でも関わりのある一部分しか評価できなかったことが推測される。交通手段の確保、的確な情報提供等を行うことで大学周辺以外の上越市を知ってもらい上越市のイメージアップを図る必要がある。

参考 アンケート用紙

[質問 8]学費と家賃・光熱費を除いて、あなたがお金をかけているものは何ですか。

1番かけている順に3つまでを選び、1, 2, 3の番号を記入してください。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 食費 | <input type="checkbox"/> 交際費(コンパ代を含む) |
| <input type="checkbox"/> 通信費(電話代・接続料など) | <input type="checkbox"/> 衣服・美容 |
| <input type="checkbox"/> 学習・教養 | <input type="checkbox"/> 趣味・レジャー |
| <input type="checkbox"/> 交通費(車・バイクの経費含む) | <input type="checkbox"/> 貯金(上記を目的としない貯金) |
| <input type="checkbox"/> その他 簡単に記入してください。【 | 】 |

[質問 9]主にどこでショッピングをしますか(日用品以外の物)。3つ選んで、 を付けてください。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 高田地区の商店街 | <input type="checkbox"/> 直江津地区の商店街 |
| <input type="checkbox"/> ジャスコやウィングマーケット周辺 | <input type="checkbox"/> 上越大通りや山麓線など幹線道路沿いの店 |
| <input type="checkbox"/> その他の上越地域 | <input type="checkbox"/> 長岡市 |
| <input type="checkbox"/> 新潟市 | <input type="checkbox"/> 長野県(長野市や軽井沢市など) |
| <input type="checkbox"/> 首都圏 | <input type="checkbox"/> 帰省先(または帰省途中で) |
| <input type="checkbox"/> その他 簡単に記入してください。【 | 】 |

[質問 10]普段、時間ができたとき、あなたが「よく行くところ」はどこですか(複数回答可)。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 映画館 | <input type="checkbox"/> 図書館 |
| <input type="checkbox"/> スポーツ施設(ジム、プール、ボウリングなど) | <input type="checkbox"/> 友人のところ |
| <input type="checkbox"/> アウトドア(海、山、スキー、キャンプなど) | |
| <input type="checkbox"/> ゲームセンター・カラオケ・パチンコ | <input type="checkbox"/> 大学周辺の飲食店 |
| <input type="checkbox"/> 高田地区の飲食店 | <input type="checkbox"/> 直江津地区の飲食店 |
| <input type="checkbox"/> その他の上越地域の飲食店 | <input type="checkbox"/> ドライブ・温泉 |
| <input type="checkbox"/> サイクリング・公園・散歩散策 | <input type="checkbox"/> 本屋・コンビニ |
| <input type="checkbox"/> インターネットカフェ・漫画喫茶 | <input type="checkbox"/> お店めぐり(店内をぶらつく) |
| <input type="checkbox"/> その他 簡単に記入してください。【 | 】 |

[質問 11]上越市内のイベントで参加したことがあるものはどれですか(複数回答可)。

- | | |
|--|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 4月の観桜会 | <input type="checkbox"/> 8月の謙信公祭 |
| <input type="checkbox"/> 7月の上越祭り・花火大会 | <input type="checkbox"/> 8月の上越はすまつり |
| <input type="checkbox"/> 2月のレルヒ祭 | <input type="checkbox"/> 高田・直江津の朝市 |
| <input type="checkbox"/> 高田公園フリーマーケット | |
| <input type="checkbox"/> その他 簡単に記入してください。【 | 】 |

[質問 12]上越市内のイベントで参加してみたいものはどれですか(複数回答可)。

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 伝統行事(お祭り、花火大会を含む) | <input type="checkbox"/> スポーツイベント |
| <input type="checkbox"/> 芸術イベント | <input type="checkbox"/> 音楽イベント |
| <input type="checkbox"/> 農業イベント(農産物の即売会など) | <input type="checkbox"/> フリーマーケット |
| <input type="checkbox"/> 産業フェア(特産品の展示即売など) | <input type="checkbox"/> 教育・文化イベント(講演会等を含む) |
| <input type="checkbox"/> 環境イベント(水と緑の祭典など) | |
| <input type="checkbox"/> その他 簡単に記入してください。【 | 】 |

[質問 13]上越市で生活して、暮らしやすさを感じるのとはどんなことですか(複数回答可)。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 自然(緑)が豊かである | <input type="checkbox"/> 人情味がある |
| <input type="checkbox"/> 歴史や伝統がある | <input type="checkbox"/> 災害や公害が少なく安心である |
| <input type="checkbox"/> 交通網が整っている | <input type="checkbox"/> 働く場が整っている |
| <input type="checkbox"/> 住宅事情がよい | <input type="checkbox"/> 買い物が便利である |
| <input type="checkbox"/> 文化施設が整い催しなども多い | <input type="checkbox"/> 福祉医療の施設とサービスが整っている |
| <input type="checkbox"/> 海や山の幸に恵まれ食が豊 | <input type="checkbox"/> 教育機関が整っている |
| <input type="checkbox"/> 楽しめるレジャー施設が整っている | <input type="checkbox"/> 老後も安心して生活できる |
| <input type="checkbox"/> 市民の声をいかしたまちづくりが進められている | |
| <input type="checkbox"/> その他 簡単に記入してください。【 | 】 |

[質問 14] 上越市のイベント情報や観光情報を、どのようにして手に入れていますか。

主なものに を付けてください。(複数回答可)

- ()市の広報誌 ()学内の掲示板 ()タウン情報誌
()インターネット ()新聞・ラジオ・テレビ ()口コミ
()まちを散策して
()その他 簡単に記入してください。【 】

[質問 15] 普段の主な交通手段は何ですか。2つまで を付けてください(1つでも構いません)。

- ()徒歩 ()自転車 ()バイク・スクーター ()自動車
()バス ()タクシー ()電車

[質問 16] 過去、ボランティア活動に参加していた、もしくは現在参加していますか。

当てはまる()内に を付けてください。(過去とは大学・大学院入学前、現在とは入学から今まで)

過去参加した 現在参加している

- 障害者支援 () ()
幼児・児童支援 () ()
高齢者支援 () ()
外国人支援 () ()
環境保護・リサイクル () ()
イベント運営支援 () ()
町内会活動の支援 () ()
災害復興支援 () ()
スポーツ指導 () ()
芸術・技術指導 () ()
その他【 】 () ()

[質問 17] 今後、参加したいボランティア活動があれば を付けてください(複数回答可)。

- 【 】障害者支援 【 】幼児・児童支援 【 】高齢者支援
【 】外国人支援 【 】環境保護・リサイクル 【 】イベント運営支援
【 】町内会活動の支援 【 】災害復興支援 【 】スポーツ指導
【 】芸術・技術指導
【 】その他 簡単に記入してください。()

[質問 18] ボランティアの情報はどうして手に入れましたか(複数回答可)。

(入手したことがないときは無回答で構いません。)

- ()市の広報誌 ()インターネット
()タウン情報誌 ()新聞・ラジオ・テレビ
()大学事務局の掲示 ()クラスの掲示や口コミ
()部活・サークルの掲示や口コミ ()教員・ゼミなどの掲示や口コミ
()大学外・街頭・バイト先などの情報
()その他 簡単に記入してください。【 】

[質問 19] ボランティア活動に参加するとしたら、あなたが重視するものは何ですか。

3つ選び、 を付けてください。

- ()誰のため・何のためになる活動か ()どれくらいの体力が必要か
()時間がかかるか・継続性が必要か ()長期休業中(夏休みなど)にできるか
()多少の謝礼(交通費)が出るか ()日常的な行動範囲内で行けるか
()自分の専攻と関係があるか ()知識・技術を必要とするか
()単位に認定されるか ()就職に有利になるか
()その他 簡単に記入してください。【 】

裏のページへ

[質問 20]日常生活の中で気にかかっていることは何ですか(複数回答可)。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 授業やレポートなど勉学上のこと | <input type="checkbox"/> 生活やお金のこと |
| <input type="checkbox"/> 就職・進路のこと | <input type="checkbox"/> 住居や生活の雑事 |
| <input type="checkbox"/> 時間が足りないこと | <input type="checkbox"/> アルバイトのこと |
| <input type="checkbox"/> 政治や社会の動き | <input type="checkbox"/> サークル・部活動 |
| <input type="checkbox"/> 心身の健康のこと | <input type="checkbox"/> 自分の性格や能力のこと |
| <input type="checkbox"/> 打ち込めることが見つからないこと | <input type="checkbox"/> 友人関係のこと |
| <input type="checkbox"/> 友人以外の対人関係のこと | <input type="checkbox"/> ガール(ボーイ)フレンドのこと |
| <input type="checkbox"/> 特にない | |

[質問 21]大学生活で、もっとも重点をおいているものは何ですか。1つだけ選び、 を付けてください。

- | | |
|--|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 勉強第一 | <input type="checkbox"/> 部活・クラブ第一 |
| <input type="checkbox"/> 趣味第一 | <input type="checkbox"/> 豊かな人間関係 |
| <input type="checkbox"/> 資格取得第一 | <input type="checkbox"/> パイト・貯金 |
| <input type="checkbox"/> ボランティア | <input type="checkbox"/> 何事もほどほどに |
| <input type="checkbox"/> 重点は置かずなんとなく生活 | |
| <input type="checkbox"/> その他 簡単に記入してください。【 | 】 |

[質問 22]あなたの学籍・学年は何ですか。当てはまるところに を付けてください。

- 学部生(1年 2年 3年 4年)
大学院生(現職教員. M1 M2)
大学院生(学部卒業. M1 M2)
研究生・科目履修生ほか

[質問 23]あなたの専攻(希望する専攻)は何ですか。

- | | | |
|--|--|---|
| <input type="checkbox"/> 学校教育系 | | |
| <input type="checkbox"/> 幼児教育・障害児教育系 | | |
| <input type="checkbox"/> 教科教育系 | | |
| <input type="checkbox"/> その他 簡単に記入してください。【 | | 】 |

[質問 24]あなたが所属している部活やサークルは何ですか。

- | | | |
|--|---------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 文化芸術系 | <input type="checkbox"/> 福祉系 | <input type="checkbox"/> 教育系 |
| <input type="checkbox"/> 体育系 | <input type="checkbox"/> 看護・医療系 | |
| <input type="checkbox"/> その他 簡単に記入してください。【 | | 】 |
| <input type="checkbox"/> 所属していない | | |

[質問 25]あなたの出身地はどこですか。

- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 上越市 | <input type="checkbox"/> 上越市以外の新潟県内 | <input type="checkbox"/> 北海道 |
| <input type="checkbox"/> 東北 | <input type="checkbox"/> 関東 | <input type="checkbox"/> 中部 |
| <input type="checkbox"/> 近畿 | <input type="checkbox"/> 中国 | <input type="checkbox"/> 四国 |
| <input type="checkbox"/> 九州沖縄 | <input type="checkbox"/> 外国 | |

[質問 26]現在、上越市に何人でお住まいですか(自分を含めて)。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1人 | 2人 | 3人 | 4人以上 |
| ┆-----┆ | ┆-----┆ | ┆-----┆ | ┆-----┆ |

ご協力ありがとうございました。

ご回答は、講301前の掲示コーナーまたは共用棟掲示コーナー前の「回収箱」に投函して
くださいますようお願い致します。

本アンケートに関する問い合わせは

上越市創造行政研究所 〒943-0806 上越市木田新田1-1-10 電話 025-524-6101(担当:渡来・植木)

J・PRU 上越市創造行政研究所

Joetsu city Policy Research Unit

- 【設立】 2000年(平成12年)4月
- 【目的】 上越市創造行政研究所は、本格的な地方分権時代を迎えるなかで自治体が真の自主・自立を果たすため、政策立案能力の向上を目的として設立された上越市の組織内シンクタンクです。行政の現場と連携しながら様々な課題についての調査研究を行い、地域発展へ貢献することを目指して活動しています。
- 【活動】 政策立案に求められる調査研究業務とその研究成果の発信および市民セミナーなどの開催

JPRU04 - 003

上越教育大学「上越市における学生生活アンケート」結果
(「大学生と地域の協力によるまちづくりに向けた調査研究報告書」別冊)
平成17年3月発行



この報告書についてのお問合せは下記へお寄せください。

上越市創造行政研究所

〒943-0806 新潟県上越市木田新田1-1-10
上越市役所木田新田分室2階
TEL (025) 524-6101 FAX (025) 524-6105
E-mail: souzou@city.joetsu.lg.jp
<http://www.city.joetsu.niigata.jp/gyosei/souzou>